

構造改革特別区域計画

1 構造改革特別区域計画の作成主体の名称

佐伯市

2 構造改革特別区域の名称

佐伯市小・中一貫教育特区

3 構造改革特別区域の範囲

佐伯市の全域

4 構造改革特別区域の特性

(1) 広大な面積、豊かな自然環境をもつ佐伯市

佐伯市は、大分県の南東部に位置し、北は津久見市、西は臼杵市及び豊後大野市、南は宮崎県境に接している。平成17年3月3日の市町村合併により、近隣の1市8町村が合併し、面積約903km²（九州で一番広い市）、人口約8万人の大分県南の産業・経済の中核地としての新しい佐伯市となった。市の南西部には「祖母傾国定公園」の一角をなす山々に囲まれ、東部は遠くに四国を望む豊後水道に面し、「日豊海岸国定公園」に指定されている約200kmに及ぶ美しいリアス式海岸が続いている。年間平均気温は16度前後と温暖な気候で、冬でも積雪はほとんどない。また、九州有数の清流・番匠川をはじめ多くの支流も有し、豊かな水に恵まれた地域でもあり、市の中心地はその番匠川の河口に広がる沖積平野にある。

(2) 学校規模の適正化や学校の適正配置が求められている佐伯市

市町村合併で広域化した市内には、市立小・中学校が小学校34校、中学校14校の計48校ある。この数は県内では県都大分市に次ぐ数であるとともに、いわゆる小規模校・極小規模校が多いのが特徴である。

少子化による児童数減少の傾向は本市も例外ではなく、現在34校の小学校のうち11校は複式学級による指導が行われている。現在の小学生数は約4,200人であるが、毎年100人程度の児童数が減少することが見込まれており、一定規模の学習集団による教育効果を確保する観点から、統廃合を含めた学校の適正規模の確保や適正配置が急務となっている。同時に、離島の極小規模校についても、離島という特殊条件を考慮しながら今後の学校の在り方について検討する必要がある。

そこで、今後10年の本市の教育の在り方を見通すため、平成17年度から「佐伯市長期総合教育計画審議会」を立ち上げ、学校の適正規模・適正配置の考え方や学校選択制度の在り方、二学期制の在り方など新市の実態に即した豊かな教育環境の整備方針等について検討を重ね、平成18年12月完成をめざし「佐伯市長期総合教育計画」を策定作業中である。

(3) 地域ぐるみの特色ある学校づくりを推進する佐伯市

本市では、学校や広域化した地域の実態、特性等を生かした「特色ある教育活動の推進」などの重点施策を具体化する取組を進めている。これは、市町村合併により広域化したことで、今以上に「小・中学校間」、「学校と地域間」の連携の推進・充実を図ろうとする趣旨である。

本市が「小・中学校間」の連携の推進・充実を進める背景としては、県が実施した「基礎・基本の定着状況調査」等のいわゆる学力テスト結果において、小学生、中学生の学力や学習習慣の定着状況が県内でも低い傾向にあるという学習指導上の課題や、都市部・周辺部に関わりなく中学校入学以後に不登校生徒が増加するいわゆる「中1ギャップ」などの生徒指導上の課題の解決が急務であることが挙げられる。これは、小・中学校間で児童生徒理解の方法や学習指導方法などについて、これまでお互いに情報交換したり、共同で研修したりする場が乏しかったことなどが要因として考えられる。そこで、学習指導上の課題を解決するために、本市独自の「評価規準診断テスト」を作成・実施する取組を始めた。テスト問題の作成に当たり、中学校の教員が小学校の教科のテスト問題を作成したり、小・中学校教員がテスト問題の妥当性などについて議論する場を設けたりしている。生徒指導上の課題を解決するためには、中学校区単位での小・中学生指導連絡会を開催し、各学校がお互いの情報交換を行いながら積極的な生徒指導の推進に努めている。また、本市の適応指導教室では、相談員や臨床心理士を新たに単独配置し不登校児童生徒の受入れ体制を充実するとともに、教育相談の中核的機能を果たせるよう拡充を図っている。

「学校と地域間」の連携の推進に当たっては、平成16年度から学校教育に対して関心をもつ地域の人々を、学習活動サポーター（ボランティア）として各教科等の授業の中で活用する方法や内容について、研究指定校において実践研究を進めてきた。学校が保護者や地域の信頼に応えながら、学校外の人材を積極的に活用して学校の活性化を図るなど地域に開かれた学校づくりという点で一定の成果を収めつつある。また、地域ぐるみの特色ある学校づくりを推進するため、各学校からの企画・提案を教育委員会が受け、審査のうえ内容に応じて助成する事業を立ち上げた。学校長のリーダーシップの発揮とビジョンが求められる昨今、各学校の教育的ニーズに応じて予算が確保でき、校長裁量により弾力的に執行できるものと期待している。

(4) 小学生の英語活動、中学生の海外姉妹都市交流を推進する佐伯市

人口に占める留学生の割合が全国第2位という本県にあって、県内の立命館アジア太平洋大学（以下、APUという。）と友好交流協定を締結している本市の特色を生かし、小学生の豊かな国際感覚と自国や郷土を愛する心をはぐくむため、留学生等を小学校の授業等で活用する取組を進めてきた。本市では、留学生等を「英語活動指導助手」「国際交流支援アドバイザー」といった名称で採用し登録している。現在、小学校では34校中10

校が、中学校では14校中2校が「総合的な学習の時間」や「英語科」の授業の中でこれら留学生等を英語活動や英語学習、国際交流活動の一環として活用するとともに、各学校で授業公開日を設定することにより実践成果の普及に努めている。

また、本市は平成9年度からオーストラリア・グラッドストン市との姉妹都市協定を締結をしている。両市の教育国際交流の一環として、隔年で市内中学生をグラッドストン市の姉妹校等に派遣するとともに、同市からの中学生訪問団を受け入れ、双方の学校で授業に参加したりホームステイをしたりしている。中学生が英会話の必要性を自ら実感し英語学習への意欲を高める動機付けの機会となっている。

(5) 地域の中核となる学校づくりを推進する佐伯市

今後、学校の統廃合を含めた学校の適正規模の確保や適正配置が進めば、学校と地域のつながりが希薄になったり、周辺部から都市部へと人口が集中することにより周辺部の過疎化がより一層深刻になったりして、学校の活力ひいては地域の活力にも少なからず影響してくるものと予想される。

今回の事業を進めようとする上浦地域(東雲小学校・東雲中学校)、本匠地域(本匠小学校・本匠中学校)、直川地域(直川小学校・直川中学校)及び離島の大島地域(大島小学校・大島中学校)は、本市の中にあって周辺部に位置する地域(学校)である。これら4地域は、農村・漁村地帯であり豊かな自然と古い歴史をもつ地域であるとともに、他地域に比べ転入する住民も少ないため、地域住民同士のつながりが深く地域社会の結びつきが強い地域である。また、これら地域にある学校は、小学校1校、中学校1校で構成される中学校区であること、小・中学校が隣接していることなどの条件から、地域住民の学校に対する愛着や期待も強く、地域文化の拠点としての役割も果たしている。

このような特性をもつ地域(学校)で、現在の6・3制の弾力化を視野に、9年間を見通した特色ある学校づくりの一環として小・中一貫教育を導入することにより、確かな学力を身につけ、感性豊かで郷土や学校に自信と誇りがもてる人材を育成し、学校のみならず地域の活性化につなげていきたいと考えている。

また、将来は、今回申請するこれら4地域の学校での実践や評価・検証を踏まえ、他の地域や学校の活性化もめざしたいと考えている。

5 構造改革特別区域計画の意義

(1) 佐伯市のまち・ひとづくりからみた意義

9つもの市町村が合併し九州で最も広い市となった本市においては、行財政改革の推進が喫緊の課題である。一方で、「安心・元気・飛躍」をキーワードにした未来に夢と希望を抱くことのできる佐伯市を実現するためには、本市がもつ豊かな自然や各地域の歴史、文化を利活用した魅力あるまち・ひとづくりが求められている。そこで、「まちづくりの原点はひとづく

り」との観点から、平成18年度中に策定予定の「佐伯市長期総合教育計画」には、「生きる力をはぐくむ学校教育の推進、信頼と協働による学校づくりの推進」など、とりわけこれからの佐伯市を担う子どもたちの教育の充実を目標とした具体的な施策を掲げている。小・中一貫教育の導入は、その具体的な施策の一つであり、将来の佐伯市を担う「ひとづくり」に大いに貢献するものと考えている。

また、本市における少子化の傾向も例外ではなく、特に本市にあって周辺部の地域では転入する住民は少なく、学校の児童生徒が著しく減少する状況にあり、学校や地域の活力の低下が懸念される。さらに、もし将来、学校選択制度を導入することになれば、周辺部から都市部へと就学児人口の流出が加速することも予想される。こうした地域に小・中一貫教育校を導入することにより、小学校と中学校が一体となった新しい教育システムとなることから、活力ある生活集団や学習集団が形成され学校としての形態が確かになるとともに、就学児をもつファミリー層の住民が安心して居住できる教育環境を提供できるなど、魅力ある「まちづくり」につながるものと期待している。

(2) 子どもからみた意義

子どもにとって、小学校から中学校へと進学する際には、学級担任制から教科担任制に変わったり、学習内容や指導方法、学校生活上のきまりが変化したりするなど学校の教育システムの大きな違いに直面する。このような様々な学校のシステムの違いが、中学校進学時に同時に起こるため、子どもの心理的な不安やストレスなどの不適応状態が生じることがあり、中学校での不登校の増加や非行等問題行動の発生につながるものが少なくない。

小・中一貫教育においては、小学校と中学校が学習面や学校行事などを共同で実施する場合が多くなる。このため、小・中学校の円滑な接続が進み、子どもがスムーズに中学校生活に慣れていくなど子どもの心理的な負担が軽減することになり、安定した学校生活を送ることができる。また、異年齢集団による学び合いの活動や地域のニーズに応じた学習活動等をおして、子どもたち一人ひとりが郷土に誇りをもったり、思いやりの心を身につけたりできる。

(3) 学校や教師からみた意義

学習指導面では、小・中一貫教育で9年間の連続した一貫性のある教育課程が編成・実施できるとともに、小学校の教師が中学生を指導したり、中学校の教師が小学生を指導したりできる。これにより、基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、個に応じた指導を行い個性の伸長を図ることができる。特に、現在の「6・3制」の教育システムを弾力化した教育課程を小学校、中学校が共同で編成することにより、学級担任制や教科担任制のよさを今以上に発揮することが可能になる。

生徒指導面では、子どもの個性、交友関係、健康状態等を小学校と中学校の教師間で共有したり情報交換したりすることがより一層進むため、義務教育9年間を見通した基本的な生活習慣の定着など、一人ひとりの子どもに適応した長期的・継続的できめ細かな生徒指導が可能になる。

(4) 保護者からみた意義

小・中一貫教育においては、児童生徒に対して小学校と中学校が共通の教育理念のもとに指導を行うことになり、保護者の学校教育に対する理解が深まり、学校経営に対する信頼が向上する。また、小学校と中学校のPTAが学校行事などで連携して活動することが予想され、小・中学校の保護者間の交流も深まる。保護者にとって、義務教育9年間の見通しがもてるとともに自分の子どもと違う年齢層の保護者との子育てに関する情報交換の機会が増加し、子育てに対する不安軽減にもつながる。

(5) 地域社会からみた意義

本市では、これまで研究指定校などで学校教育に関心をもつ地域の方々を、各教科や総合的な学習の時間の授業の中で「学習活動サポーター」としてボランティアで活用する方法などを実践研究し、その成果を各学校へ普及してきた。各学校からは「地域人材を授業で活用することで、子どもたちの学習意欲が喚起された」「地域に開かれた学校づくりを推進するうえで地域の方々に授業で活用することが最も効果的だった」「教師の意識改革に地域人材の活用が効果的だった」などの成果が報告されている。

小・中一貫教育においては、地域ぐるみの活動や地域に開かれた特色ある学校づくりがより一層進み、地域住民と学校・児童生徒との相互の交流・関心が高まる。ひいては、学校教育に関心をもつ地域住民が増加し、「地域の子どもは地域で育てる」という機運を醸成し地域の活性化につながるものと考えている。

6 構造改革特別区域計画の目標

(1) 佐伯市のめざす目標

本市は、「安心・元気・飛躍」をキーワードにした未来に夢と希望を抱くことのできる「まち・ひとづくり」を進めている。そこで、「まちづくりの原点はひとづくり」との観点から、今後10年間の教育の在り方を見通す「佐伯市長期総合教育計画」の策定に取り組むことにした。小・中一貫教育の導入は、その具体的な施策の一つであり、将来の佐伯市を担う「ひとづくり」につながるものと考えている。

昨今、学力低下の問題や不登校児童生徒の増加等の学校教育を取り巻く全国的な傾向は本市も例外ではない。そのため、小・中一貫教育を導入することにより、確かな学力を身につける学習指導方法の改善、感性を重視した教育、理科教育の充実、不登校及び非行等問題行動児童生徒への生徒指導の充実、国際的視野に立つ子どもの育成をめざしたコミュニケーショ

ン能力の向上等、今日的な問題解決に資することをめざすものである。

併せて、今回申請する4地域での小・中一貫教育校での実践と検証を重ねたうえで、今後の地域に開かれた特色ある学校づくりの在り方の一つのモデルとして市内の他の地域や学校に対して提言し、活性化を促す。

(2) 小・中一貫教育校のめざす目標

- ① 9年間を系統的な指導による一貫した教育を通して、基礎学力の充実と基礎的・基本的な内容の確実な習得に努め、児童生徒一人ひとりがたくましく生きるために必要な個性と能力を培う。
- ② 学力向上をめざし、現行の小・中学校のもつ特性や地域の実状を踏まえ、9年間を見通したより活力ある学習集団の形成や学習指導及び内容などの工夫・改善を進めることにより、確かな学力の習得を図る。
- ③ 一人ひとりの個性や能力の伸長を期し、校種の枠を取り除いた教師の指導上の連携により、効果的かつ実効ある指導法の工夫・改善を図る。
- ④ 教科、道徳、特別活動や総合的な学習の時間を通し、異年令構成による指導体制の確立や地域の教育力の支援のもとで、児童生徒の発達段階に応じた専門的かつ多様な指導法を開発する。
- ⑤ 生徒指導の充実を期し、9年間という連続した時間の中で、学校、家庭、地域社会との相互連携を密にし、個に応じた望ましい人間関係の醸成や充実した児童生徒理解に努める。

(3) めざす目標を達成するための具体的方策

- ① 9年間の一貫教育としての特性を生かした教育課程を編成するために、児童生徒の実態に即し、系統的なカリキュラムや指導計画の在り方、学習集団、生活集団の在り方などを見直し、ゆとりある学習時間と学習の有効性を工夫する。
- ② 児童生徒の一人ひとりの個性と能力の伸長を効果的に進めるため、小学校5年生から一部教科担任制の授業を導入し、専門性を高めるとともに中学校への円滑な移行を効果的に行う。(理科、音楽、図画工作、体育等の教科について、各学校の実情に応じて導入)
- ③ 国際化の波が急速に押し寄せる状況の中で、将来的な視野に立ち国際社会に適応できる児童生徒を育成するために、国際理解教育の一環として、APUの留学生等を活用した、英語によるコミュニケーションを位置付けた「英語活動の時間」を小学校1年生から導入する。また、小学校5年生から「英語科」の授業を導入する。これまで中学校3年間で学習した英語教育の内容を小学校5年生から中学校3年生までの5年間で学ぶことにより、ゆとりと充実ある指導計画と学習指導法を開発する。
なお、小学校5年生から中学校英語科の教科書を早期給与する。
- ④ 一人ひとりの個性や能力の伸長を図るため、ティームティーチング等を取り入れたきめ細かな学習指導について、小学校、中学校の枠を取り外した密接な連携による指導体制の確立に努める。

- ⑤ 生徒指導における方針及び指導の共有化を図り、児童生徒の異学年交流を基盤に生活集団の活性化に努め、安定した学校生活のもとで、個に応じた自己実現を一貫した指導体制で行う。
- ⑥ 従来の義務教育6・3制を「心身の発達特性」「学力形成の特質」「生徒指導上の諸課題の出現状況」の観点から弾力的に見直す。9年間を前期4年、中期3年、後期2年の3つに区分し、小学校と中学校の教育課程が連続性と発展性をもつ教育課程を作成するなど新しい教育システムを構築する。

区 分		学年	指導形態	ね ら い
前期	4年間	小1年 } 小4年	学級担任制	・学習習慣の定着 ・学び方の学習
中期	3年間	小5年 小6年	学級担任制 一部教科担任制	・基礎的・基本的な内容の定着 ・個に応じた指導
		中1年	教科担任制	
後期	2年間	中2年 } 中3年	教科担任制	・問題解決能力や実践力の育成 ・個性と能力の伸長

- ⑦ 小・中一貫教育校と市教育委員会で構成する小中一貫教育推進協議会を設置し、教育課程の編成や評価・検証等の運用にかかわる事項について協議する。

(4) 新たに教科等を開設する理由

「英語が使える日本人」の育成など教育の国際化が叫ばれている昨今、本市では今後のまちづくりなどの将来を見据えたとき、豊かな国際感覚をもった人材、国際的視野に立ち自他の考えを言葉で伝え合う実践的コミュニケーション能力をもった人材の育成が求められている。

このため、小学校では、総合的な学習の時間の中で大学の留学生等を活用し、子どもが楽しみながら外国語などに触れたり慣れ親しんだりする活動を行っている。中学校では、実際場面でのコミュニケーション能力を向上するため、外国語指導助手（以下、ALTという。）を各中学校に計画的に派遣し、「聞くこと」「話すこと」に重点を置いた英語の授業を展開しているところである。

本市の子どもたちの英語によるコミュニケーション能力の実態や国際理解教育の実態を探るため、オーストラリア・グラッドストン市の中学生訪問団との人的交流を経験した中学生（平成16年度約400名）に対して事後アンケート調査を実施した。「グラッドストンの生徒にどのような方法にかかわったか」という問いに対して、「英語」と答えた生徒が17%、「身ぶり手ぶり」が23%、「かかわろうとしなかった」が27%、「日本語などほかの方法」が33%という結果であった。中学生段階で英語を使おうとする生徒は2割に満たないこと、コミュニケーションを図れない生徒が

3割程度いることがわかった。また、「他者に佐伯市のよいところを説明できるか」という問いに対して、「できる」と答えた生徒は31%、「できない・わからない」と答えた生徒が69%という結果であり、異文化理解と同様に国際理解教育として重要な自国（郷土）文化理解に乏しい生徒が7割近くいることがわかった。

これらのことから、異文化や外国の人には関心はもっても、実際場面で英語をコミュニケーションの手段として利用しようとする生徒の育成にはつながっていない実態がみられる。国際感覚を涵養する基盤として重要な郷土のよさなどを実感としてもちえていない生徒の実態もうかがえる。

そこで次のような理由から、今回新たに教科等を開設する。

ア 英語に慣れ親しんだり英会話を体感的に学んだりする活動は、外国の人や文化に対して抵抗が少なく、好奇心旺盛な小学校1年生から導入する必要がある。

イ 英語活動と英語教育の違いを明確にする必要がある。

ウ 英語による実践的コミュニケーション能力を育成するため、小学校における英語教育を充実し、ひいては中学校の英語教育を豊かにするシステムが必要である。

① 英語活動の時間の開設

小学校1年生から小学校4年生段階までに、英語に親しむ「英語活動の時間」を位置付け、国際理解教育の一環としての教育内容を編成する。

英語活動の時間では、外国の人や英語に慣れ親しむ英語活動を通して、気づいたことや楽しかったこと等を言葉や動作などで伝え合うコミュニケーション能力の基礎を培うとともに、異文化や自国（郷土）文化に対する興味・関心を高めることをめざすものである。したがって、1・2年生の生活科の目標や3・4年生の総合的な学習の時間のねらいを達成しつつ、学校や地域の実態に応じて1年生から4年生までの一貫性・系統性のある英語活動の時間の教育課程を編成するため、新しい一定のまとまった時間を設定して実施する。

教育課程の編成に当たっては、児童の発達段階に応じて、その目標を第1・2学年は「日常の遊びから、人や英語に親しむ活動」、第3・4学年は「人や英語に親しむ活動から場面設定での英会話の活動、郷土や外国を知り比べる活動」とし、4年間を見通した一貫性・系統性のある英語活動を行うとともに、第5学年から行うの英語科との円滑な接続を図る。指導体制については、学級担任が主な指導者となるが、必要に応じてAPUの留学生等や増員したALTを活用して工夫・充実を図る。

② 英語科の開設

小学校5年生から中学校3年生段階までに教科「英語科」を位置付け、これまで中学校3年間で学習した英語教育の内容を小学校5年生から中学校3年生までの5年間で学ぶことにより、ゆとりをもった実践的なコミュニケーション能力を育成するための指導計画と学習指導法を工夫・

開発する。

教育課程の編成に当たっては、第5学年から従来の中学校第1学年の英語の教科書を早期給与し、第5学年から第7学年の前半までの2年半で中学校第1学年の学習内容をゆとりを持って履修する。第7学年の後半からは第8学年の学習内容を前倒しして履修する。第8学年は当該学年の学習内容を履修するとともに第9学年の学習内容を前倒しして履修する。第9学年は当該学年の学習内容を履修するとともに、英語によるコミュニケーションの実践場面をとおして既習事項の定着を図ったり発展的な学習に取り組んだりするなど、これまでの英語学習の内容を総括的に扱うこととし、5年間を見通した一貫性のある英語教育を行えるようにする。

そのため、第7学年からは、当該学年の英語の教科書とともに上学年の教科書の早期給与が必要になる。

指導体制については、第5・6学年は小・中兼務制を生かした中学校英語教員による指導を行う。第7～9学年については従来どおり中学校英語教員が指導を行う。また、必要に応じて大学の留学生等の外国の人を外部講師として活用して指導効果を上げる。

7 構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果

今回の計画申請は、現在の6・3制の弾力化を視野に、小学校における一部教科担任制の導入、英語活動の時間や英語科の新設など9年間を見通した特色ある学校づくりの一環として小・中一貫教育を導入するものである。小・中一貫教育の経済的社会的効果については、長期的・継続的な指導を行うことによりその成果が現れるものであるが、本計画に基づく取組を長期的・継続的に行うことにより、次のような効果が期待できる。

(1) 小・中学校の相互理解による学習指導及び生徒指導の充実

小・中一貫教育を実施することにより、まず校種間での教師の交流が活性化される。中学校教師にとっては、小学校段階から子ども一人ひとりの理解を深めることができる。小学校教師にとっては、中学校段階での子どもの様子から小学校での指導の在り方を振り返ったり、中学校と連携しながら必要に応じて個別の指導や教育相談に応じたりすることもできる。多くの教師が子ども一人ひとりについて長期的に理解を深めながら、温かい人間関係づくりを進めることが可能である。

また、小学校において一部教科担任制を導入し、小・中兼務制を生かして中学校教員の専門性を可能な限り小学校でも発揮する指導体制を組織することにより、児童の知的好奇心を刺激し意欲的に学習に取り組ませることができる。同時に、教育課程の研究開発は、教師の意識改革と研修の機会となり指導力の向上につながる。

このような取組は、学習指導や生徒指導を充実させ、確かな学力を定着させるとともに、学校生活への不適応による不登校児童生徒の減少に効果があると考ええる。

(2) 英語教育や国際理解教育の充実

小学校に教科「英語科」を新設するとともに、小学校から中学校までの一貫した英語活動・英語教育のカリキュラムを作成し実施することによって、英語による実践的コミュニケーション能力や異文化・自国(郷土)文化の理解を深め、国際感覚豊かな人材が育成できる。また、中学校卒業段階までには英語による簡単なコミュニケーションが可能となる子どもを育てることができる。

(3) 地域に開かれた特色ある学校づくりや地域の活性化の推進

小・中一貫教育においては、地域ぐるみの活動や地域に開かれた特色ある学校づくりがより一層進み、地域住民と学校・児童生徒との相互の交流・関心が高まる。

また、小・中一貫教育校が特色ある教育活動を展開することで、学校教育に関心をもつ地域住民が増加し、「地域の子どもは地域で育てる」という機運の醸成につながるとともに、就学児をもつファミリー層の住民が安心して居住することにより地域の活性化が期待される。

8 特定事業の名称

802 構造改革特別区域研究開発学校設置事業

819 構造改革特別区域研究開発学校における教科書の早期給与特例事業

9 構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業に関連する事業その他の構造改革特別区域計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

(1) 小・中一貫教育推進協議会の設置

本市が計画している小・中一貫教育の目標達成をめざし、今回申請する4地域の小・中一貫教育校・教育委員会の関係者で組織する推進協議会を設置し、教育課程、指導体制・指導方法に関することなど、幅広く検討しながら推進しており、今後も引き続き設置のうえ実施していく予定である。

(2) 特色ある学校づくりサポート事業

平成18年度からの本市の単独事業で、地域の方々が誇りをもてる学校などの地域ぐるみの学校づくりを推進するため、各学校からの企画・提案を教育委員会が受け、審査のうえ特色ある内容に応じて助成する。小・中一貫教育は、本事業の一環として学校や地域と連携を図っていく教育活動を期待するものであり、今後とも拡充していく予定である。

(3) 佐伯市とAPU（立命館アジア太平洋大学）との友好交流事業

本市とAPUとの友好交流事業を通して、大学との連携を深めるとともに、「英語活動指導助手」「国際交流支援アドバイザー」といった留学生を

授業で活用するシステムを今後とも拡充し、これからの本市の国際交流の在り方や国際理解教育の充実、英語によるコミュニケーション能力の向上を長期的・継続的に図っていききたい。

(4) 学力向上支援事業

平成17年度から、子どもたちの学習の到達度を適切に評価するとともに、教員に対して評価についての力量を高め指導法の工夫改善に資する目的で、本市独自の「評価規準診断テスト」を作成・実施する取組を始めた。テスト問題の作成に当たり、中学校の教員が小学校の教科のテスト問題を作成したり、小・中学校の教員がテスト問題の妥当性などについて議論する場を設けたりして、校種間で連携する必要性を教師間で学ぶ取組を進めている。小・中一貫教育による英語学習の定着状況を把握したり、指導方法の工夫・改善に生かしたりする手段として充実していきたい。

(5) 教員の小・中兼務制による協働指導体制

本県では、小規模校における教科別教員構成の適正化を図るため、県単独で音楽等の技能教科において、近隣の小・中学校に限り兼務発令により専科教員を配置している。本市が計画している小・中一貫教育の目標達成をめざし、今後は理科や図画工作・美術、体育などの教科において小・中兼務制を進める。これらの教科においても兼務発令により異なる校種での授業を担当できる体制を整備し、小・中学校教員の協働関係を構築することにより、教師の専門性を生かした指導の充実を図る。

(6) A L T の増員

異文化理解などの国際理解教育の推進、英語によるコミュニケーション能力等の育成を図るため、本市単独でのA L T を今より1名増員し小・中学校に対して計画的に派遣する。

(7) 美術・図画工作担当の非常勤講師の採用

本市が計画している小・中一貫教育にあって、「感性の教育の充実」も目標の一つである。この目標を達成するため、従来の県単独の兼務発令による音楽科専科教員の配置に加え、本市単独で美術・図画工作を担当する非常勤講師を3名採用する。教師の専門性と小・中兼務制を生かし小・中学校における図画工作や美術の授業を通して感性の教育の充実を図る。

別紙 構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業の内容、実施主体及び開始の日並びに特定事業ごとの規則の特例措置の内容

別紙

1 特定事業の名称

802 構造改革特別区域研究開発学校設置事業

2 当該規則の特例措置の適用を受けようとする者

佐伯市立東雲小学校・東雲中学校、本匠小学校・本匠中学校、直川小学校・直川中学校、大島小学校・大島中学校

3 当該規則の特例措置の適用の開始の日

平成19年4月1日

4 特定事業の内容

(1) 事業に関与する主体

佐伯市

(2) 事業が行われる区域

佐伯市立4中学校区内の4小学校及び4中学校

(佐伯市立東雲小学校・東雲中学校)

(佐伯市立本匠小学校・本匠中学校)

(佐伯市立直川小学校・直川中学校)

(佐伯市立大島小学校・大島中学校)

(3) 事業の実施期間

平成19年4月1日から

(4) 事業により実現される行為や整備される施設などの詳細

上浦地域（東雲小学校・東雲中学校）、本匠地域（本匠小学校・本匠中学校）、直川地域（直川小学校・直川中学校）及び離島の大島地域（大島小学校・大島中学校）において、小中9年間を見通した系統性・継続性のある連携型の小中一貫教育を行う。

東雲小学校・東雲中学校では、英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする資質や能力と豊かな国際感覚の育成を図るため、小学校1年～4年に「英語活動の時間」、小学校5・6年に「英語科」の新設を具体的な方策に掲げた教育課程の編成を行う。

本匠小学校・本匠中学校では、これからの国際社会の中で心豊かにたくましく生きる児童・生徒の育成を図るために、国際理解教育の一環としての「英語活動の時間」、外国語教育としての「英語科」を新設し、言語や文化に対する理解を深め、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養うことを具体的な方策に掲げた教育課程の

編成を行う。

直川小学校・直川中学校では、小学校段階から英語に慣れ親しみ、中学校英語へのスムーズな移行を図るとともに、外国語や外国文化に興味・関心を持ち、豊かな国際感覚を養いながら、イニシアティブをもった実践的コミュニケーション能力の育成を図るため、9年間で継続的・系統的に指導する「英語活動の時間」・「英語科」の新設を具体的な方策に掲げた教育課程の編成を行う。

大島小学校・大島中学校では、過疎化に悩む将来の大島を担う「人材の育成」を図るため、小学校1年～中学校3年までの9年間を見通した英会話を学習活動の中心におく「英語活動の時間」、小学校5年～中学校3年までの5年間を見通した「英語科」を新設するための具体的な方策を掲げた教育課程の編成を行う。

5 当該規則の特例措置の内容

(1) 取組の期間

平成19年4月から実施し、平成24年度に事業全体を評価し、見直しを実施する。ただし、その間に学校教育法の改正や新しい学習指導要領等が示された場合においては、当該特例措置の内容やその後の継続等を含め、十分な検討を行う。

(2) 教育課程の基準によらない部分

① 東雲小学校・東雲中学校

ア 東雲小学校

- 前期の第1学年から第4学年に「英語活動の時間」を新設する。
(第1・2学年は年間20時間、第3・4学年は年間35時間)
 - ・第1学年と第2学年の生活科を20時間削減し、「英語活動の時間」に充てる。
 - ・第3学年と第4学年の総合的な学習の時間を35時間削減し、「英語活動の時間」に充てる。
- 中期の第5学年と第6学年に「英語科」を新設する。(年間70時間)
 - ・第5学年と第6学年の総合的な学習の時間を70時間削減し、「英語科」に充てる。
- 前期の第1学年から第4学年までの「英語活動の時間」の一貫した教育課程を編成する。

イ 東雲中学校

- 中期の第5学年から後期の第9学年までの「英語科」の一貫した教育課程を編成する。

② 本匠小学校・本匠中学校

ア 本匠小学校

- 前期の第1学年から第4学年に「英語活動の時間」を新設する。
(第1・2学年は年間15時間、第3・4学年は年間35時間)
 - ・第1学年と第2学年の生活科を15時間削減し、「英語活動の時間」に充てる。
 - ・第3学年と第4学年の総合的な学習の時間を35時間削減し、「英語活動の時間」に充てる。
- 中期の第5学年と第6学年に「英語科」を新設する。(年間50時間)
 - ・第5学年と第6学年の総合的な学習の時間を50時間削減し、「英語科」に充てる。
- 前期の第1学年から第4学年までの「英語活動の時間」の一貫した教育課程を編成する。

イ 本匠中学校

- 中期の第5学年から後期の第9学年までの「英語科」の一貫した教育課程を編成する。

③ 直川小学校・直川中学校

ア 直川小学校

- 前期の第1学年から第4学年に「英語活動の時間」を新設する。
(第1・2学年は年間15時間、第3・4学年は年間35時間)
 - ・第1学年と第2学年の生活科を15時間削減し、「英語活動の時間」に充てる。
 - ・第3学年と第4学年の総合的な学習の時間を35時間削減し、「英語活動の時間」に充てる。
- 中期の第5学年と第6学年に「英語科」を新設する。(年間60時間)
 - ・第5学年と第6学年の総合的な学習の時間を60時間削減し、「英語科」に充てる。
- 前期の第1学年から第4学年までの「英語活動の時間」の一貫した教育課程を編成する。
新設する。

イ 直川中学校

- 小学校第5学年から中学校第3学年までの「英語科」の一貫した教育課程を編成する。

④ 大島小学校・大島中学校

ア 大島小学校

- 前期と中期の第1学年から第6学年に「英語活動の時間」を新設す

る。(第1・2学年は年間20時間、第3・4学年は年間70時間、第5・6学年は年間35時間)

- ・第1学年と第2学年の生活科を10時間削減するとともに、10時間分を別途上乘せして「英語活動の時間」に充てる。
- ・第3学年と第4学年の総合的な学習の時間を35時間削減するとともに、35時間分を別途上乘せして「英語活動の時間」に充てる。
- ・第5学年と第6学年に35時間分を別途上乘せして「英語活動の時間」に充てる。

- 中期の第5学年と第6学年に「英語科」を新設する。(年間55時間)
- ・第5学年と第6学年の総合的な学習の時間を55時間削減し、「英語科」に充てる。

イ 大島中学校

- 中期と後期の中学校第1学年から中学校第3学年に「英語活動の時間」を新設する。(年間35時間)
- ・中学校第1学年から中学校第3学年に35時間分を別途上乘せして「英語活動の時間」に充てる。
- 小学校第1学年から中学校第3学年までの「英語活動の時間」の一貫した教育課程を編成する。
- 小学校第5学年から中学校第3学年までの「英語科」の一貫した教育課程を編成する。

(3) 計画初年度の教育課程の内容

① 東雲小学校・東雲中学校

ア 「4・3・2制」による教育システム

前期(第1学年～第4学年)では、学級担任によるきめ細かな指導を行い、中期(第5学年～第7学年)では、第5・6学年の英語科、音楽科で一部教科担任制を導入するとともに、小・中兼務制による教員の専門性を生かした指導を行う。後期(第8学年～第9学年)では、教科担任制による個に応じた指導を行い個性の伸長を図る。

イ 小学校における「英語活動の時間」の新設

a 「英語活動の時間」新設の趣旨

小学生の時期に英語の音声面(話すこと・聞くこと)に慣れ親しませ 外国文化に触れさせることは、これからの国際社会で、自ら進んでコミュニケーションを図ろうとする能力の育成に繋がる。

そこで、「英語活動の時間」として小学校の第1学年～4学年で取り組み、コミュニケーション能力の基礎を養い、英語や外国の文化についての興味・関心を深め豊かな国際感覚を培うとともに、教

科としての「英語科」につながる基本的な能力を身につけさせる。

b 全体目標

小学校の段階から英語の音声面（話すこと・聞くこと）に慣れ親しませ、自ら進んでコミュニケーションを図ろうとする能力をそだてるとともに、外国の文化に興味・関心を持ち豊かな国際感覚を養う。

c 指導目標

- ・前期（第１・２学年）・・・英語の歌やゲームをする活動などをおして、外国の言葉に興味・関心をもつことができる。
- ・前期（第３・４学年）・・・英語の歌やゲームをする活動などをおして、外国の言葉に興味・関心を持ち、簡単な会話ができる。

d 教科書

市販のテキストやカード、実物、V T R等の視聴覚機器等を利用した教材を活用して指導する。

e 指導体制

学級担任が中心に指導するが、連学年でも指導する。また、必要に応じて外国人の外部講師（立命館アジア太平洋大学の留学生）を活用して指導効果を上げる。

f 指導内容

学年	時数	○単元名・◇目標	主な内容（言語教材）
第 １ 学 年	１	○あいさつをしよう ◇簡単なあいさつができる	Hello ! My name is~ How are you? Nice to meet you.
	１ ９	○英語であそぼう ◇楽しくゲームや歌を通して色、数、果物、動物、体の一部などについて英語で話すことができる。	色・果物・動物・数を英語でいう。 What Color? Red. Blue. White. What's this? Apple. Orange. Banana. What's this? Dog. Cat. Rabbit. How many ~? Three. Nine. 体を動かしながら楽しく歌う。 Let's sing christmas songs! 好きなものを英語でいう。 What () do you like? I like ~. 体を使って遊ぶ。 Touch your ~.
20h		○あいさつをしよう	Hello ! My name is~

第 2 学 年	1	◇簡単なあいさつができる	How are you? Nice to meet you.
	1 9	○英語であそぼう ◇楽しくゲームや歌を通して色、数、果物、動物、体の一部などについて英語で話すことができる。	色・果物・動物・数を英語でいう。 What Color? Red. Blue. White. What's this? Apple. Orange. Banana. What's this? Dog. Cat. Rabbit. How many ~? Three. Nine. 体を動かしながら楽しく歌う。 Let's sing christmas songs! 好きなものを英語でいう。 What () do you like? I like ~. 体を使って遊ぶ。 Touch your ~.
第 3 学 年	2	○あいさつをしよう ◇簡単なあいさつができる	友達と簡単な英語であいさつをしたり、受け答えしたりして、人とのふれあいを楽しむ。 Hello ! My name is~ How are you? Nice to meet you.
	1 4	○英語で遊ぼう ◇色・数・果物・動物・乗り物などの言い方をゲームなどで楽しむことができる	物の名前などを英語で言ったり聞いたりする。 What color ? It's Red. How many ? Five What is this ? It's Lion.
	9	○歌を歌おう ◇英語の歌を楽しく歌うことができる	体を動かしながら、友達と楽しく歌う。 [Head Sholders Knees and Toes] [Christmas song]
	1 0	○好きな物を言おう ◇自分の好きな物を英語で言うことができる。	好きな物を英語で言う。 I like dogs. What animal do you like ? I like cat.
第 4 学 年	2	○あいさつをしよう ◇簡単なあいさつができる	友達と簡単な英語であいさつをしたり、受け答えしたりして、人とのふれあいを楽しむ。 Hello ! My name is~ How are you? Nice to meet you
	1 4	○英語で遊ぼう ◇色・数・果物・動物・野菜・乗り物などの言い方をゲームなどで楽しむことができる	物の名前などを英語で言ったり聞いたりする。 What vegetable is this ? It's onion. How many ? ten What is this ? It's a horse.

35h	9	○歌を歌おう ◇英語の歌を楽しく歌うことができる	体を動かしながら、友達と楽しく歌う。 [Head Sholders Knees and Toes] [Bingo] [Seven steps] [Christmas song]
	10	○好きな物を言おう ◇自分の好きな物を英語で言うことができる。	好きな物を英語で言う。 I like pizza. What food do you like ? I like curry and rice.

g 評価

「英語活動の時間」が教科ではないことを考慮し、評価に関しては、毎学期、所見欄に文章表現する。

○評価規準

・評価の観点

(第1・2学年)・・・①コミュニケーションへの関心・意欲・態度
②聞くこと・話すこと的能力

(第3・4学年)・・・①コミュニケーションへの関心・意欲・態度
②聞くこと・話すこと的能力
③言語や文化への理解

○カリキュラム評価・・・教師（小・中）、保護者、児童

- ・指導計画に関する評価
- ・指導方法に関する評価
- ・実施状況に関する評価
- ・指導体制に関する評価

○自己評価・・・・・・・・児童

- ・英語活動の時間に関する意識調査、興味関心の度合い等

ウ 小学校における「英語科」の新設

a 「英語科」新設の趣旨

小学生の時期に外国語に触れ、音声面の感覚や、外国の文化に触れることは、「実践的コミュニケーション能力」を養うことに繋がる。コミュニケーションをとる手段のひとつとして、「英語」にとりくむことは、中学校で学習する、教科としての「英語科」の学習の基本的な能力を、5年間をかけて、連続的、系統的に無理なく育成することができる。

b 教科目標

小学校段階から英語に慣れ親しみ、中学校英語へのスムーズな移行を計るとともに、外国語や外国語文化に興味・関心を持ち豊かな国際感覚を養いながら、積極的に交流を図ろうとする態度など、コミュニケーション能力を育成する。

c 指導目標

- ・中期（第5・6学年）・・・英語の発音や文字について知り、簡単な英語を書いたり英会話をするをとおして、日本語と英語の違いを理解し、より積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
- ・中期（第7学年）・・・小学校で習得した知識を生かし、英語の語順や音の決まりを理解することをとおして、英語でより正確に表現する力を身につける。また、外国の文化に触れ、相手を尊重しながらコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
- ・後期（第8学年）・・・既習事項を生かし、より複雑な構造の英文を理解することによって、英語表現の幅を広げる。また、日本の文化や自分の考えを英語で紹介する活動をとおして、相互理解を目指したコミュニケーション能力を身につける。
- ・後期（第9学年）・・・場面に応じた会話表現を理解・習熟し、より細かな内容についてのコミュニケーション能力を養う。また、まとまった内容の英文を読んだり書いたりする活動をとおして、英語運用の総合的な力を身につける。

d 教科書

中期（第5・6学年）の指導に当たっては、第7学年（中学校第1学年）の教科書を、後期（第8学年）の指導に当たっては、第9学年（中学校第3学年）の教科書をそれぞれ早期給与する。

e 指導体制

中期（第5・6学年）では小中兼務制を生かした中学校英語教員による指導を行う。中期（第7学年）と後期（第8・9学年）では中学校英語教員が中心に指導するまた、必要に応じて外国人の外部講師（立命館アジア太平洋大学の留学生）を活用して指導効果を上げる。

f 小中一貫した指導内容

学 年	時 数	単 元 名 ・ 目 標	主な指導内容等
	5	簡単な英語の歌を歌おう	

第 5 学 年	20	簡単な自己紹介・家族紹介をしよう	I'm~/Are you~?/This is/That is/He is/She is を使って簡単な自己紹介、家族紹介ができる。
	10	過去のことにについて英語で話そう	played~/Did you~?Yes,I did./No,I didn't/を使って過去にした事について表現できる。
	25	身近な話題に関する自分の考えや意見を伝えよう	これまでに学習した英文を使って自分の考え、意見を伝えることができる。
	70h	1年間の学習を振り返ろう	1年間で学習したことを振り返り、表現の復習をする。
第 6 学 年	70	(領域別目標) ①英語を聞くことに慣れ親しみ、簡単な英語を聞いて、話された内容の大筋を理解することができる。 ②英語を話すことに慣れ親しみ、簡単な英語を用いて自分のことなどを話すことができる。 ③英語を読むことに慣れ親しみ、簡単な英語を読んで書かれた内容の大筋を理解することができる。 ④英語で書くことに慣れ親しみ、簡単な英語を用いて自分のことなどを書くことができる。	・正しくアルファベットを書くことができる。 ・簡単な単語を正しく書くことができる。 ・簡単な英文を書くことができる。 ・Be 動詞 I am~. You are~. Are you~? ・代名詞 Is this your~? She is from~. What is this? It is a~. ・一般動詞 I play~. Do you play~? Yes,I do. No, I don't. I don't like ~. ・命令文 I have two sisters. Speak~.Don't~. ・三人称単数 Ken likes~. Does he like~? Who is that boy?
第 7 学 年	105	①英語を聞くことに慣れ親しみ、簡単な英語を聞いて話された内容を理解することができる。 ②英語で話すことに慣れ親しみ、簡単な英語を用いて自分の気持ちなどをはなすことができる。 ③英語を読むことに慣れ親しみ、簡単な英語を読んで書かれた内容を理解することができる。 ④英語で書くことに慣れ親しみ、簡単な英語を用いて自	・Where ~? ・Whose ~? ・現在進行形 He is playing~. ・助動詞 I can play~. Can you play~? ・When~? - Be 動詞の過去形 I was home. - 過去進行形 I was playing~ - 未来形 She was going to~. - I will

105 h		分の気持ちなどを書くことができる。	・ Is there~? We must~/ 接続詞 When I was a boy~. I think that~. We have to ~. ・ I went there to~ . I want to~, something to drink
第 8 学 年 105 h	105	① 英語を聞くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を聞いて話された内容を理解することができる。 ② 英語で話すことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の気持ちなどを話すことができる。 ③ 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで、書かれた内容を理解することができる。 ④ 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の気持ちなどを書くことができる。	・ I enjoy~ing.I'll give her~. She looks~. ・ 比較 It is as~as~. He is taller than~. That is the oldest~. ・ 現在完了形 I have lived here since then. I have been to~. How long have you been to~? ・ if~.why~.節 ・ how to ~,It is hard for me to~.
第 9 学 年 105 h	105	① 英語を聞くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を聞いて話しての意向などを理解することができる。 ② 英語で話すことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができる。 ③ 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解することができる。 ④ 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができる。	・ 受身 It was written by~. ・ He calls me Jack. It made me happy. ・ the boy running over there a house built 50 years ago a book I bought yesterday ・ a boy who can run fast a city which has a bih park the man that I met at the station the table that he bought at there

g 評価

○評価規準

(第5．6学年) 毎学期一回評価

- ・ 評価の観点：①コミュニケーションへの関心・意欲・態度
②聞くこと、話すこと的能力
③言語や文化への理解
- ・ 観点別学習状況（A，B，Cの3段階評価）
- ・ 評定（3段階）

(第7～9学年) 毎学期一回評価

- ・評価の観点：①コミュニケーションへの関心、意欲、態度
- ②表現の能力
- ③理解の能力
- ④言語や文化についての理解

・観点別学習状況（A，B，Cの3段階評価）

・評定（5段階）

○カリキュラム評価・・・教師（小・中）、保護者、児童生徒

- ・指導計画に関する評価
- ・指導方法に関する評価
- ・実施状況に関する評価
- ・指導体制に関する評価

○自己評価・・・児童生徒

- ・英語に関する意識調査、興味関心の度合い

② 本匠小学校・本匠中学校

ア 「4・3・2制」による教育システム

前期（第1学年～第4学年）では、学級担任によるきめ細かな指導を行い、中期（第5学年～第7学年）では、第5・6学年の英語科、音楽科で一部教科担任制を導入し、担任と中学校英語教員のTTで授業を行う。

中期（第7学年）・後期（第8学年～第9学年）では、教科担任制による個に応じた指導を行い個性の伸長を図る。

イ 小学校における「英語活動の時間」の新設

a 「英語活動の時間」新設の趣旨

現在、小学校の英語活動や中学校の外国語授業の実態から、小学校と中学校の指導内容・方法上にはさまざまな課題がある。

そこで、小学校の英語活動と中学校の教科「英語科」をつなぎ、児童がスムーズに英語科の学習に入れるよう、小学校において第1学年～第4学年に「英語活動の時間」を設ける。

ここでは、英語学習に役立つ内容を、発達段階に応じて「聞く」「話す」の2領域を中心に活動を仕組み、英語に慣れ親しませる。また、外国の言語や文化に対する興味・関心を高める。そうすることで、連続的・系統的に無理なく基礎的コミュニケーション能力の基礎の育成を図ることができる。

b 全体目標

英語に慣れ親しむ中で、「聞くこと」や「話すこと」などのコミュニケーション能力の基礎を培うとともに、英語や外国の文化に対する

興味や関心を深め、豊かな国際感覚を養う。

c 指導目標

- ・前期（第1・2学年）・・・音声主体の言語活動を通して、外部講師や友だちと楽しく遊びながら、簡単な英語でのコミュニケーションに親しむ。
- ・前期（第3・4学年）・・・音声主体の言語活動を通して、外国の言葉や生活に関心を持ち、簡単な英語特有のコミュニケーションの仕方に慣れ親しむ。

d 教科書

市販のテキストやカード、実物、VTR等の視聴覚機器を利用した教材を活用して指導する。TV番組の視聴等も取り入れる。

e 指導体制

学級担任が中心に単学年で指導するが、必要に応じて連学年での指導も行う。また、外部講師（立命館アジア太平洋大学の留学生やゲストティチャー等）を活用して指導効果を上げる。

f 指導内容

学年	時数	単元名・◆目標	主な内容等
第1学	1	あいさつ・自己紹介 ◆簡単なあいさつを通して、コミュニケーションを楽しむ。	・簡単なあいさつの英会話を交わす。 Hello! How are you? I'm ○○. My name is ○○. ※英語の歌 "What's your name" "Hello!" 等
	4	これは何? ◆身の回りのもの等と言う活動を通して、表現に親しみ、コミュニケーションを楽しむ。	・身の回りのものや、果物、色、動物を表す英単語を知り、ゲームや歌を通して慣れ親しむ。 What is this? It is ○○. This is ○○. ※ゲーム「フルーツバスケット」「カラーバスケット」等 ※英語の歌 "Yummy in Tummy" 等
	2	数える ◆1～10までの数字の音声に慣れ親しむ。	・1～10までの英単語を言ったり聞いたりする。 ・ゲームを通して数字に慣れ親しむ。 How many? two. ※「数字ビンゴ」「あてっこゲーム」等

年 15h	2	大きい・小さい ◆大小を身体で表現する活動を通して、比較の表現に親しみコミュニケーションを楽しむ	・大きい(big)小さい(small)を知る。 ・動物を指して出された質問に答える。 Is a ○○ big or small? Big! ※英語の歌 “Animal Talk”
	2	体・動作 ◆体で表現する活動を通して体の名称や動作に関する表現に親しむ。	・体の名称を知る。 ・動作の言葉 (walk, run, jump, touch, hop) を知り、ゲームを通して慣れ親しむ。 ※英語の歌” Head Shoulders Knees and Toes”
	4	くださいな ◆これまで学習した英単語を用いた買い物遊びを通してコミュニケーションを楽しむ。	・買い物客になったつもりで、英会話を交わす。 ○○ please. Here you are. Thank you.
第 2 学 年 15h	2	はじめまして ◆簡単なあいさつができる。 天気・季節 ◆天気や季節をたずねたり、答えたりすることができる。	・簡単なあいさつの英会話を交わす。 Hello. How are you? I' m ○○. ・天気や季節を表す言葉を知り、英会話を交わす。 How is the weather?(season) It is sunny. (spring, summer,)
	3	数える ◆いくつかたずねたり、答えたりすることができる。	・1から20までの英単語を言ったり聞いたりする。 How many? Twenty.
	3	これは何? ◆これは何かたずねたり、答えたりすることができる。	・色や形、野菜等の言い方を知る。 What is this? It' s a yellow circle.
	3	たいそうをしよう ◆体の部位の言い方を知り、体操をすることができる。	・体の部位を知る。 Hand, foot, nose, eyes, mouth Left, right, up, down
	4	くださいな ◆これまで学習した英単語を用いた買い物遊びを通してコミュニケーションを楽しむ。	・買い物客になったつもりで、英会話を交わす。 One carrot, please. Here you are. Thank you.
	2	はじめまして・自己紹介 今日の気分は? ◆簡単なあいさつができ、今	・あいさつや自己紹介、今日の気分を言う。 Hello, how are you? I' m ○○ (fine, Ok, great)

第 3 学 年 35h		日の気分が言える	What is your name? My name is ○○
	2	何曜日? ◆曜日の言い方を知り、今日や 明日、昨日の曜日が言える	・曜日や今日、昨日、明日の言い方を言ったり、聞いたりする。 What day is it? Today is Monday. Tomorrow is Friday.
	4	○○は、好きですか? (人気調査) ◆○○が好きかたずねたり、 答えたりすることができる	・好きな色や形、飲み物などをたずねたり、 答えたりして、簡単な会話をする。 Do you like ○○? (Red, blue, yellow,) Yes, I do. /No, I don' t.
	4	数をかぞえてみよう (いくつかな?) ◆いくつあるかたずねたり、 答えたりすることができる	・1～30までの数を言ったり、聞いたりする。 How many ○○ Seven ○○
	3	誕生月はいつ? ◆月の言い方を知り、誕生月を 聞いたり、答えたりすることが できる	・1月～12月の言い方を言ったり、聞いたりする。 When is your birthday? My birthday is ○○
	3	体や顔の部位をおぼえよう ◆体や顔の部位の言い方を知り、 触ったり、言ったりすることが できる	・頭、耳、腕など体や顔の部位を言ったり、 聞いたり、触ったりする。 Touch (body parts) What is this? It is ○○. (head, mouth,)
	3	好きな○○は何? ◆好きな食べ物やスポーツ、動 物などをたずねたり、答え たりすることができる	・好きなものをたずねたり、答えたりする What ○○ do you like? I like ○○.
	4	買い物をしよう ◆店の品物の名前を知り、買 い物ごっこができる	・これまでに学習したものを使って買い物 ごっこをする。(果物、野菜、おやつ、等) May I help you? ○○ please. Here you are. Thank you.
	3	家族を紹介しよう ◆家族の言い方を知り、話す ことができる	・家族やペットの言い方を言ったり、聞いたりする。 Who is this? It' s my mother
	4	おやつ交換をしよう ◆欲しいものをたずねたり、 答えたりして、交換するこ とができる	・○○が欲しいという言い方や答え方を知り、 簡単な会話をする。 What do you want? I want ○○. Here you are.

			Thank you.
	3	アルファベットで遊ぼう ◆アルファベットを読むことができる	・ A～Zまでのアルファベットを読む ・ アルファベットを組み合わせて、簡単な単語を作ってみる。 apple , white ,
第 4 学 年 35h	2	はじめまして 自己紹介をしよう ◆簡単なあいさつができる ◆名前、年齢、好きなスポーツなどが言える	・ あいさつを交わし、自己紹介をする Hello, How are you? I' m ○○. What is your name? My name is ~. How old are you? I am nine years old. I like soccer.
	4	数をかぞえてみよう ◆数字のカードを読んだり、1から50を唱えたりすることができる	・ 1から50までの数を言う
	4	誕生日はいつ? ◆月日の言い方を知り、誕生日を聞いたり答えたりすることができる 序数1-31	・ 何月何日の言い方を使う When is your birthday? My birthday is ○○. What is the date today? It is ○. ・ 曜日の聞き方 What day is it today?
	2	何時? ◆時刻をたずねたり、答えたりすることができる	・ 何時何分の言い方を知る What time is it? It is seven o' clock. おおかみゲーム
	3	体の部位をおぼえよう ◆体の部位の言い方を知り、話すことができる 体操	・ 体の部位の言い方を知る mouth eyes nose ears head knees shoulders, What is this? It' s ○○. Up, down, right, left
	3	好きな○○は何? ◆好きなスポーツや果物などをたずねたり、答えたりすることができる	・ 好きなものについて話す What do you like? I like ○○.
	4	これは、何? ◆身に付けているもののいい方を知り、答えることができる	・ 身に付けているものの言い方を知る What is this? It is a hat?
	4	買い物しよう ◆店の品物の名前を知り、買い物ごっこができる	・ 品物の言い方を知り、買い物ごっこをする Clothes saladなど May I help you? I want ○○. Here you are.

		Thank you.
3	家族を紹介しよう ◆家族の言い方を知り、話すことができる ◆家族の好きなこと	・家族の言い方を知る Family mother, father, sister, brother, My brother likes baseball.
3	場所をたずねよう ◆場所をたずねたり、答えたりすることができる	・部屋の言い方を知り、場所を答える Where is your mother? She is in the kitchen. on /in / under /を使う
3	アルファベットで遊ぼう ◆アルファベットを読むことができる ◆これまで使った簡単な単語を見て、読むことができる	・アルファベットを使ったゲーム ・同じ文字で始まる単語を集めたり、読んだりする ・仲間集めをする 果物 野菜 家族など

g 評価

「英語活動の時間」が教科ではないことを考慮し、評価に関しては、毎学期、所見欄に文章表現する。

○評価規準・・・・・・・・・・教師（小・中）

評価の観点	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
コミュニケーションに親しむ (関心・意欲・態度)	①みんなと楽しく活動しようとしている。 ②進んでコミュニケーションを図ろうとしている。 ③わからないことは、たずねようとする。			
理解する	①相手の目を見て話を聞いている。 ②簡単な指示や質問に対して返事や動作で応じている。		① 聞いている内容をおおまかに理解している。 ②アルファベットに興味をもとうとしている。	
表現する	①相手の目を見て発話している。 ----- ②まねて発話している。 ③理解したことを動作で表現している。			
英語や外国の文	① 英語の歌やゲームなど、外国の文化に親しんでいる。			

化に親しむ	② 英語での言い方に興味を持っている。
-------	---------------------

○カリキュラム評価・・・教師（小・中）

- ・指導計画に関する評価
- ・指導方法に関する評価
- ・実施状況に関する評価
- ・指導体制に関する評価

○自己評価・・・・・・・・・・児童

- ・英語活動の時間に関する意識調査、興味関心の度合い等

ウ 小学校における「英語科」の新設

a 「英語科」新設の趣旨

英語学習の基礎となる目標・内容を発達段階に応じて取り扱い、連続的・系統的に無理なく実践的コミュニケーション能力の育成を図ることをねらいとする。

b 教科目標

外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的なコミュニケーション能力の基礎を養う。

c 指導目標

- ・中期（第5・6学年）では、初歩的な言語活動をととして、外国の生活や文化に関心を持ち、コミュニケーションに対する意欲を身につけることができるようにする。
- ・中期（第7学年）では、初歩的な言語活動をととして、外国の生活や文化に対する理解を深め、コミュニケーションに対する積極的な態度を身につけることができるようにする。
- ・後期（第8学年）では初歩的な言語活動をととして、外国の生活や文化に対する理解を深め、コミュニケーションに対する積極的な態度とコミュニケーション能力を身につけることができるようにする。
- ・後期（第9学年）では初歩的な言語活動を通して、外国の生活や文化に対する理解を深め、コミュニケーションに対する積極的な態度とさらに言語の使用場面や言語の働きを一層広げたコミュニケーション能力を身につけることができるようにする。

d 教科書

中期(第5・6学年)の指導に当たっては、第7学年(中学校第1学年)の教科書を、後期(第8学年)の指導に当たっては、第9学年(中学校第3学年)の教科書をそれぞれ早期給与する。

e 指導体制

中期(第5・6学年)では中学校英語教員と担任によるTT指導を行う。中期(第7学年)と後期(第8・9学年)では中学校英語教員が中心に指導する。また、必要に応じて外国人の外部講師(立命館アジア太平洋大学の留学生等)を活用して指導効果を上げる。

f 小中一貫した指導内容

学年	時数	単元名・目標	主な内容等
第5学年	2	ガイダンス 4年生の復習	○学習の進め方
	40	フォニックス ○音声を大切にしながら基礎的なアルファベットの文字と音の關係に慣れる。 ・アルファベットの名前(8h) ・アルファベットの音(8h) ・5つの母音(a/e/i/o/u)(8h) ・eのついた母音(8h) (a-e/e-e/i-e/o-e/u-e) ・2文字子音(8h) (sh/ch/ph/wh/th/ck/ng)	・アルファベットの名前(大文字・小文字) ・アルファベットの音 ・5つの母音(a/e/i/o/u) ・eのついた母音(a-e/e-e/i-e/o-e/u-e) ・2文字子音(sh/ch/ph/wh/th/ck/ng)
	50h	8 “Hello, English!” ○‘Hello.’ ‘Thank you.’等の簡単なあいさつができる。 ○Classroom Englishに慣れ、指示を理解する。 ○身のまわりの英語を通して日本語と英語の音の違いに気づく。 ○アルファベットを読んだり書いたりすることができる。 ○簡単な単語を読んだり書いたりすることができる。 ○ヘボン式のローマ字を用いて日本語を表現することができる。	○簡単なあいさつ ○Classroom English (Good morning. / How are you? / Fine, thank you. / Stand up. / Sit down. / Raise your hands. / Open your books to page two.等) ○身のまわりの英語 ○アルファベット(大文字・小文字) ○単語 ○ヘボン式ローマ字 ・ローマ字表 ・“shi / tsu / chi / fu / ja / ju / jo / sha / shu / sho” ・「っ」「ん」の表記 ・固有名詞の最初の大文字
	4	ガイダンス 5年生の復習	○学習の進め方 ○フォニックス

		○フォニックスの復習	○辞書の引き方
	12	Unit 1 「ようこそグリーン先生」 ○自己紹介や簡単なあいさつができる。 ○日本語と英語の語順の違いなど、文の構造について理解する。 ○英語を表記する際のきまりを理解する。 ○ "I am ~." "You are ~." の文の肯定文・否定文・疑問文と応答の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な内容を表現できる。 ○相手の出身国について尋ねたり、答えたりすることができる。	○ I am ~. を用いた表現 ・ I am Emi. ○ You are ~. を用いた表現 ・ You are Ms. Green. ・ Are you Ms. Green? — Yes, I am. ・ Are you from America? — No, I'm not. ○ Nice to meet you. Nice to meet you, too.
第 6 学 年	12	Unit 2 「学校で」 ○ This[That] is ~ の文の形・意味・用法を理解し、表現することができる。 ○ Is this[that] ~? の文の形・意味・用法を理解し、表現することができる。 ○ He(She) is ~. の文の形や意味・用法を理解し、表現することができる。 ○ 教師や友だちについて簡単な紹介をすることができる。	○ this や that を用いた文型 ・ This is my country. That is my country. ・ Is this a school? — Yes, it is. No, it is not. It's a hospital. ○ He や She を用いた文型 ・ He [She] is my friend. ・ He [She] is not our teacher. ・ Is he [she] our teacher? — Yes, he [she] is. No, he [she] is not.
50h	2	まとめと練習① 単語・文の書き方 ○ be 動詞[肯定文・否定文・疑問文と応答]の復習をし、理解を確認する。 ○ 単語や文の書き方を復習する	○ be 動詞 [肯定文・否定文・疑問文と応答] ○ 単語・文の書き方 文字と文字の間 大文字で始まる語句 ピリオド、クエスチョンマーク・コンマ・アポストロフィ
	3	Word Box①「数字」 ○ 100 までの数字の言い方がわかる。 ○ 自分の年齢を言うことができる。 ○ 電話番号を聞き取ったり、言ったりすることができる。 ○ 簡単な足し算や引き算が言える。	○ zero, one, two, three one hundred ○ I'm twelve. Yuki is three. ○ My phone number is 5390-7304. ○ $12 + 8 = 20$ $10 - 4 = 6$
	12	Unit 3 「グリーン先生の初授業」	○ 一般動詞 I like music.

	○自分が関心のある事柄（スポーツや音楽等）について簡単な自己紹介ができる。 ○一般動詞の文の形・意味・用法を理解し、表現することができる。 ○一般動詞疑問文とその応答の文の形・意味・用法を理解し、表現することができる。 ○一般動詞否定文の形・意味・用法を理解し、表現することができる。	(play / like / do / come / walk / drive / have / want / speak) ○一般動詞の疑問文とその応答 Do you play the piano? — Yes, I do. / No, I do not. ○一般動詞の否定文 I do not have a car.
2	まとめと練習②一般動詞 ○一般動詞について復習し、理解を確かめる。	○一般動詞の肯定文・否定文・疑問文とその応答
3	Listening Plus 1 「何の CM?」 ○コマーシャルを聴いて、その概要やポイントを聴き取ることができる。	○コマーシャル

第 7	1	ガイダンス	○学習の仕方
	7	Unit 4 「日本大好き」 ○ What is this?の文と応答の形・意味・用法を理解し、表現することができる。 ○ be 動詞の形容詞補語の文の形・意味・用法を理解し、表現することができる。 ○ What do you ~?の文と応答の形・意味・用法を理解し、表現することができる。	○疑問詞what を用いた文と応答 ・ What is this? — It's a bird. ・ What do you have~? — I have rice. ○ be 動詞の形容詞補語の文 ・ English is interesting. ・ English is not easy.
	1	Multi Plus 1 「わたしの自己紹介」 ○自分で話題を選び、自己紹介を簡単な英語で書いたり、言ったりすることができる。	○自己紹介
	1	Speaking Plus 1 「忘れ物」 ○話しかける、聞き返す、お礼を言うときの表現を理解し、用いることができる。	○聞き返しの表現 ・ Pardon? / Excuse me. ○お礼を言う表現 ・ Thank you. — You're welcome.
	7	Unit 5 「ピクニックに行こう」 ○名詞の複数形の形・意味・用法を理解し、表現することができる。	○名詞の複数形 ・ One hamburger. ・ Two hamburgers. ○数の尋ね方と答え方

学 年 105h		○数の尋ね方、答え方を理解し、表現することができる。 ○「～しよう」と提案、「～してください」という依頼、「～しなさい」という命令の文の形・意味・用法を理解し、表現することができる。	・ How many CDs do you have? — I have five CDs. ○提案、依頼、命令(指示) ・ Let's have lunch. ・ Use this handkerchief.
	1	Word Box 2 「曜日」 ○曜日の言い方がわかる。 ○何曜日が尋ねたり、答えたりすることができる。	○曜日 ○曜日の尋ね方と答え方 ・ What day is it today? — It's Sunday. ○時間割について
	7	Unit 6 「グリーン家の人々」 ○三人称単数現在形[肯定文・否定文・疑問文とその応答]の形・意味・用法を理解し、表現することができる。	○三人称単数現在形 ・ Lisa likes Japan. ○三人称単数現在形[疑問文と応答] ・ Does she like kabuki? — Yes, she does. / No, she doesn't. ○三人称単数現在形[否定文] ・ Koji does not speak Chinese.
	1	まとめと練習③ 三人称単数現在形 ○三人称単数現在形について復習し、理解を確かめる。	○三人称単数現在形
	1	Listening Plus 2 「友だちのプロフィール」 ○簡単な自己紹介のスピーチを聞いて、ポイントを理解できる。	○簡単なスピーチ ・ 出身国・年齢・住んでいるところ ・ 好きなこと・行方曜日
	1	Speaking Plus 2 「道案内」 ○目的地までの乗り物の行き方を尋ねたり、教えたりすることができる。	○尋ね方と答え方 ・ Excuse me. Which bus goes to City Hall?— Take Bus No.3. ・ How long does it take? — About fifteen minutes.
	7	Unit 7 「カナダの学校」 ○人について誰であるか尋ねたり、答えたりする文の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ○時刻を尋ねる文と応答の形・意味・用法を理解し、表現することができる。	○疑問詞whoを用いた英文とその応答 ・ Who is Bill? — He is my brother. ○時刻の尋ね方と答え方 ・ What time is it? — It's eight(o'clock). ○カナダの中学校のようす
	1	Writing Plus 1 「学校のホームページ」 ○自分の学校の紹介を簡単な英文で書くことができる。	・ 生徒数・教員数・学校行事等
	7	Unit 8 「はじめてのカナダ旅行」 ○Where ~?の文と応答の形・意	○疑問詞 where を用いた文と応答

	味・用法を理解し、どこにあるか尋ねたり、答えたりすることができる。 ○ Whose ～? の文と応答の形・意味・用法を理解し、持ち主について尋ねたり、答えたりすることができる。 ○ 人称代名詞の目的格の形・意味・用法を理解し、表現することができる。	・ Where is my CD? — It's on the chair. ○ 疑問詞 whose を用いた文と応答 ・ Whose bag is this? — It is mine. ○ 人称代名詞の目的格 ・ Do you know him? ・ Do you know her?
1	まとめと練習④代名詞 ○ 人称代名詞について復習し、理解を確認する。	○ 人称代名詞
1	Listening Plus 3 「海外旅行」 ○ 空港や機内での典型的な対話を聞いてポイントを理解できる。	○ 空港等での会話 ・ 搭乗券 ・ 機内での対話
7	Unit 9 「クリスマスがやってきた」 ○ 現在進行形〔肯定文・疑問文と応答・否定文〕の形・意味・用法を理解し、人が今何をしているところか、述べたり、尋ねたりすることができる。 ○ 否定命令文と be 動詞で始まる命令文の形・意味・用法を理解し、「～しなさい」「～してはいけません」と指示することができる。	○ 現在進行形 ・ Koji is cooking now. ・ Is he swimming? — Yes, he is. / No, he is not. ・ What is he doing? — He is swimming. ○ 否定命令文 ・ Don't drive fast. ○ be 動詞で始まる命令文 ・ Be careful.
1	まとめと練習⑤進行形 ○ 現在進行形について復習し、理解を確かめる。	○ 進行形
1	Multi Plus 2 「わたしの一日」 ○ 一日の生活パターンについて話したり、友だちに尋ねたりすることができる。	○ 生活の中で使う動詞 ・ get up / have breakfast / walk to ~ / get to ~ / study ~ / go to bed at ~
1	Speaking Plus 3 「電話での会話」 ○ 相手が電話に出た場合の簡単なやりとりができる。 ○ 電話で相手を誘う対話を行うことができる。	○ 電話での会話 Hello. / This is Lisa. / Are you free?/ How about noon? / OK. / See you then.
7	Unit 10 「ナイアガラの滝」 ○ can を用いた文〔肯定文・否定文・疑問文と応答〕の形・意味・用法を理解し、自分や相手が	○ 助動詞 can〔肯定文・否定文・疑問文と応答〕 ・ We can see the game today.

	できることやできないことについて表現することができる。 ○ When~?の文と応答の形・意味・用法を理解し、時期について尋ねたり、答えたりすることができる。	・ We cannot see the game~. ・ Can we ride on the boat? — Yes, we can. / No, we cannot. ○ 疑問詞 when を用いた文 ・ When can we see them? — We can see them at midnight.
1	まとめと練習⑥ 疑問詞 ○ 疑問詞について復習し、理解を確かめる。	○ 疑問詞
1	Word Box 3 「月日」 ○ 月・日の言い方がわかる。日付や誕生日を尋ねたり答えたりすることができる。	○ 月 January ~ December ○ 序数 first / second / third / fourth .
1	Listening Plus 4 「ふしぎな夢」 ○ 話を聞いて、絵の中の間違いをさがしたり、正しい内容を確認したりできる。	○ 復習 ・ 進行形 ・ can
1	Speaking Plus 4 「ちょっとお願い」 ○ 許可を求めたり依頼したりすることやそれに答えたり断ったりすることができる。	○ 許可を求める ・ Can I open the window?— Sure. ○ 依頼 ・ Can you help me? — Sorry, I can't.
7	Unit 11 「それぞれのお正月」 ○ 規則動詞・不規則動詞の過去形を用いた文〔肯定文・疑問文と応答・否定文〕の形・意味・用法を理解し、表現することができる。	○ 過去形 ・ I walked across the bridge. ・ I went to school yesterday. ○ 過去形の疑問文と応答 ・ Did you study English yesterday? — Yes, I did. / No, I didn't.
1	まとめと練習⑦ 一般動詞の過去形 ○ 一般動詞の過去形について復習し、理解を確かめる。	○ 一般動詞の過去形〔肯定文・否定文・疑問文と応答〕
1	Listening Plus 5 「ある日曜日」 ○ 過去にしたことについて話を聞いて概要やポイントを理解することができる。	○ スピーチ got up / studied / went to ~ / had lunch / played / didn't play~
1	Writing Plus 2 「絵はがき」 ○ 旅先から近況を報告する簡単な絵葉書を書くことができる。	○ はがきの書き方
3	Let's read "The Hungry Lion" ○ 物語の展開を読み取ることが	・ The hungry lion got nothing.

	できる。	・ Sometimes we are like this lion.
4	Warm-up "A Speech and a Game" ○既習の英語表現を用いて自分の言いたい事柄が伝わるように話したり、聞いたりすることができる。 ○クイズ形式による英語の質問を聞いて適切に答えることができる。	○show and Tell ・ 自分の好きなものに関するスピーチ ○クイズ ・ What am I ?
7	Unit 1 "Baseball Friends" ○過去進行形の表現を適切に用いることができる。 ○目的を持って書かれた英文を読んで内容を理解でき、それを参考に類似の英文を書くことができる。 ○テレビ番組内容紹介文を読み、内容を理解できる。それを参考に類似の英文を書くことができる。	○be動詞の過去形 [肯定文・否定文・疑問文と応答] ・ This cap was 2,000 yen last week. ・ Was this cap 2,000 yen last week? — Yes, it was. / No, it was not. ○過去進行形 ・ I was reading a book then. ○look + 形容詞 ・ You look happy.
1	Listening Plus 1 「スポーツインタビュー」 ○開始時刻、スポーツの種目、出身国などの他、インタビューの中での大切な情報に注意して、聞き取ることができる。	○スポーツインタビュー インタビューを聞く
1	Writing Plus 1 「日記」 ○文章の流れを考えて、日記を書くことができる。	○日記 文章の流れ
7	Unit 2 "Emi Goes Abroad" ○be going to, SVOO, SVOC の文の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ○入国審査の場面での問答ができる。 ○イースター島についての説明を読んで、内容を理解し、また、それを参考にしてある場所について紹介することができる。	○be going to ~の用法 ・ I am going to visit Lake Towada Tomorrow. ・ Are you going to visit Lake Towada tomorrow? — Yes, I am. / No, I am not. ○SVOO の文型 ・ Show me your passport, please. ○SVOC の文型 ・ We call it a moai.
1	Listening Plus 2 「海外旅行」 ○飛行機の搭乗案内の放送や機内放送を聞いて、具体的な内容や大切な情報を聞き取ることができる。	○海外旅行 登場案内や機内放送を聞く
1	まとめと練習① いろいろな時制 ○be 動詞の過去形と「be going to + 動詞の原形」を使って、文を完	○いろいろな時制について復習をする ・ be 動詞の過去形 ・ be going to ~

	成することができる。 ○ be 動詞の過去形と「be going to + 動詞の原形」について復習し、理解を確かめる。	
1	Speaking Plus 1 「先生にお願い」 ○先生など目上の人に対して、ていねいに許可を求めたり、依頼することができる。 ○英語にも、場面や相手に応じて、丁寧度の違う表現があることに気づき、許可や依頼の表現の中から、適切に使い分けができる。	○先生にお願い ・丁寧に許可を求める・依頼する
3	まとめ ○既習の文型を用いた文を理解することができる。 ○既習の文型を用いて簡単な英語で表現することができる。	○復習

第 8 学 年 105h	1	ガイダンス	○学習の仕方
	8	Unit 3 “E-pals in Asia” ○不定詞（目的を表す副詞的用法、名詞的用法）の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ○メールを読んで、内容を理解し、また、それを参考にして日本の学校生活などをメールで簡単に説明できる。	○不定詞 ・ I use a computer to play a game. ・ I want to find some e-pals.
	1	Listening Plus 3 「家事アンケート」 ○表やグラフを見ながらプレゼンテーションを聞いて、ポイントを聞き取ることができる。	○家事アンケート グラフを使った発表
	1	Writing Plus 2 「メール」 ○日常生活でのちょっとしたことについて、友達にメールを書くことができる。	○メール ・気軽に文書をやりとりする。
	1	Multi Plus 1 「わたしの夢」 ○「将来なりたいもの」について、聞いて理解したり、自分についての英文を書くことができる。	○私の夢 ・将来自分のつきたい職業を伝える。
	4	Let's Read 1 “A Magic Box” （英語劇） ○劇形式の物語を読んで、場面の変化や登場人物の心情などを読み取ることができる。 ○劇またはロールプレイの形式で、	○3つの願いをかなえてくれる魔法の箱の話

	登場人物を演じることができる	
1	Let's Chat 1 たずね返し方、あいづちのうち方 ○適切な表現を使って、相手に尋ね返したり、あいづちをうったりできる。 ○昨夜のテレビ番組について、友達とおしゃべりすることができる	○たずね返し方・あいづちのうち方 ・ Did you? ・ Really? ・ Was it?
1	Multi Plus 2 「わたしの夏休み」 ○「夏休みの思い出」について、スピーチを聞いて理解したり、自分についての英文を書き、発表することができる。	○私の夏休み ・ 自分の夏休みの思い出を表現する。
8	Unit 4 "Homestay in the United States" ○ have to, do not have to を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ○ will、must、must not を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話ができる。 ○ホームステイについて知り、理解を深め、考える。	○have to ~ / don't have to ~ ・ I have to speak English now. ・ I do not have to speak English now. ○助動詞 will ・ I will show you her picture tomorrow. ○ must / must not ・ You must help your mother. ・ You must not eat too much.
1	Listening Plus 4 「慎のホームステイ」 ○スピーチを聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取ったり、質疑応答に参加したりすることができる。	○慎のホームステイ ・ 体験のスピーチを聞く。
1	まとめと練習② 助動詞 ○助動詞について復習し、理解を確かめる。	○助動詞 can / will / must / have to ~ / am going to / Can I ~ ? / May I ~ ? / Can you ~ ? / Could you ~ ?
1	Speaking Plus 2 「電話の会話」 ○電話の応答で、「…さんをお願いします」と取り次ぎをたのむことができる。	○電話での会話 ・ 取次ぎをたのむ。
8	Unit 5 "A Park or a Parking Area?" ○ if, when, because の各節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ○ that 節（目的）を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話ができる。 ○新聞記事を読んで、内容を理解し、	○接続詞 ・ If you can go, please call me. ・ I think that we need a parking area. ・ People complained when a bike fell on Kumi.

	また、それを参考にして、簡単な記事を書くことができる。	
1	Listening Plus 5 「テレビ番組」 ○テレビのニュースを聞いて、そのポイントを聞き取ることができる。	○テレビ番組 ・テレビのニュースを聞く。
1	Speaking Plus 3 「病院で」 ○病院の診察で用いられる表現を理解し、自分の身体の不調について説明できる。 ○医者と患者の両方の役を演じる活動をとおして、体調について尋ねたり答えたりする表現をしっかりと身に付けることができる。	○病院で ・体調の不調を訴える。
8	Unit6 “The Story of Silent Night” ○ There is[are]～（疑問文と応答）の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話ができる。 ○動名詞を主語や目的語とする文の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ○ノンフィクション（物語）を読んで、場面の変化や登場人物の心情などを読み取り、それが表れるように朗読することができる。	○There is[are]～. ・ There is a present under the tree. ・ There are some presents under the tree. ・ Is there anything interesting in it? — Yes, there is. / No, there is not. ○動名詞 ・ I finished writing this poem. ・ Singing Christmas songs is popular.
1	Listening Plus 6 「クリスマスコンサート」 ○ <i>Happy Christmas</i> の歌詞に込められたメッセージを読み取る。 ○英語の歌を聞き、歌詞を聞き取ることができる。	○クリスマスコンサート ・イベントの案内や感想を聞く。
2	Speaking Plus 4 「道案内」 ○街中の目的地までの徒歩での行き方を尋ねたり、教えたりすることができる。	○道案内 ・道順を尋ねる・教える
2	Multi Plus 3 「わたしの町」 ○町の様子を描写したり紹介したりする英文を理解し、自分の町の紹介文を書くことができる。	○わたしの町 ・自分の住む町について説明する。
4	Let's Read 2 “Try to Be the Only One” ○物語の主人公 Tsutomu の生き方を通して、逆境の中でも自分の特性を活かしながら夢を持って強く生き抜くことの素晴らしさを学	○物語 Aragaki Tsutomu の物語

	ぶ。 ○物語を通して主人公を中心とする登場人物の心情や場面の変化を読み取ることができる。	
1	Let's Chat 2 「コメントのしかた」 ○適切な表現を使って、相手の言ったことに対して簡単にコメントすることができる。 ○週末の予定について、友だちとおしゃべりすることができる。	○コメントのしかた ・ I hear~. ・ Uh-huh. ・ That's too bad. ・ That's a shame.
2	Writing Plus 3 「グリーティングカード」 ○グリーティングカードという習慣に親しむ。 ○自分で目的に合わせたグリーティングカードを作ることができる。	○グリーティングカード ・ 用途別に挨拶状を書く。
8	Unit 7 "My Favorite Movie" ○比較表現 (-er, the -est ; more, the most ; better, best ; as ... as ~) の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ○映画のあらすじを読んでスーリーを理解し、その要点・メッセージを述べることができる。	○比較表現 ・ Godzilla is stronger than King Kong. ・ Godzilla is the strongest of all monsters. ・ This movie is more interesting than that one. ・ This movie is the most interesting. ・ Emi is my best friend. ・ They fly as fast as a bird.
1	Listening Plus 7 「映画ヒットチャート」 ○テレビ等の「今週の映画ランキング」を聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取ることができる	○映画ヒットチャート ・ 映画ランキングを聞く
1	まとめと練習③ 比較表現 ○比較表現を使って、文を完成することができる。 ○比較表現について復習し、理解を確かめる。	○比較表現 ・ 比較級 ・ 最上級 ・ as~as-
1	Speaking Plus 5 「買い物」 ○買い物の場面で使われる英語の表現を理解し、英語で買い物をする ことができる。 ○「…しましょうか」という表現を理解し、運用することができる。	○買い物 ・ 買い物をする、申し出る
1	Multi Plus 4 「わたしの好きなこと・もの」 ○自分の好きなこと・ものについて	○わたしの好きなこと・もの ・ 自分の趣味や好きなものを表現する。

	て、スピーチ原稿を書いて発表できる。	
4	Let's Read 3 "Can Anyone Hear Me?" ○物語全体の発するメッセージを読み取り、それについて考える。 ○物語を読んで、場面の变化やできごとの継起を読み取ることができる。	○「おーい、でてこーい」の翻案
1	Let's Chat 3 賛成・反対のしかた ○適切な表現を使って、相手の言ったことについて一言賛成したり反対したりできる。 ○好きな歌手・タレント・スポーツ選手について、友だちとおしゃべりすることができる。	○賛成・反対の仕方 ・ I agree. ・ I disagree.
4	Warm-up "A Speech and a Game" ○間違いを恐れず自分や身の回りの事柄について英語で積極的に話す。 ○既習の英語表現を用いて自分の言いたい事柄が伝わるように話したり、聞いたりすることができる。 ○クイズ形式による英語の質問を読んで適切に答えることができる。	○復習 ・ Show and Tell 写真の紹介 ・ Find the Difference 絵の違いをさがす
8	Unit 1 "Let's Learn Braille" ○受け身の文、「make + (代) 名詞 + 形容詞」の文の意味や構造を理解し、コミュニケーションの手段として運用できる。 ○点字を通して共生社会のあり方について考える。	○受け身の文 ・ Braille is used by many people. ・ Was Braille invented by a Frenchman? — Yes, it was. / No, it was not. ○ make + (代) 名詞 + 形容詞 ・ The letters make us happy.
1	Listening Plus 1 「ボランティア活動」 ○ボランティア活動の意義、具体的な活動について知り、その大切さに気づかせる。 ○日にちや場所など大切なことについての情報に注意して、案内を聞き取ることができる。	○案内を聞く ・ We need volunteers for three things.
2	Multi Plus 1 「わたしの日本文化紹介」 ○身近な日本の伝統的な事物について、説明を読んだり聞いたりして理解したり、自分で説明すること	○日本の文化について外国の人に紹介する。 ・ A "yunomi" is used when you drink tea.

		ができる。	
	8	Unit 2 “The Shamisen Concert” ○現在完了（継続用法）の文の意味や構造を理解し、コミュニケーションの手段として運用できる。 ○三味線について書かれた文章を読み、内容を理解することができる。	○現在完了形(継続) ・ I have lived in Japan for five years. ・ She has lived in Japan for five years. ・ Have you played the piano for ten years? ・ How long have you played the piano? — For ten years. ・ These girls have been here since~.
	1	Listening Plus 2 「ニュースレポート」 ○テレビの実況中継を聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取りメモをすることができる。	○テレビ中継を聞く ・ I’m here in front of Tokyo Dome.
	2	Multi Plus 2 「わたしの修学旅行」 ○感想文のモデルや表現の例を参考にして、修学旅行記を書くことができる。	○自分の修学旅行について表現する。 ・ We went to Kyoto on a school trip.
	3	まとめ ○既習の文型を用いた文を理解することができる。 ○既習の文型を用いて簡単な英語で表現することができる。	○復習

第 9 学 年 105h	1	ガイダンス	○学習の仕方
	9	Unit 3 “Our Sister in Nepal” ○現在完了形（経験・完了）の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ○不定詞（形容詞的用法・原因を表す副詞的用法）の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ○手紙を読んで、内容を理解し、また、それへの返事を書くことができる。	○現在完了(経験・完了) ・ Have you ever heard of a famous program? ・ I have just finished my work. ・ Have you finished your work yet? ○不定詞(形容詞的用法・原因の副詞) ・ I have a lot of work to do. ・ We are glad to have a chance.
	1	Listening Plus 3 「ネパールについて知ろう」 ○地図やグラフを見ながら必要な情報を読み取り、説明を聞きながらポイントを聞き取ることができる。	○社会の授業を聞く ・ Look at this map.
	2	まとめと練習① 過去分詞 ○過去分詞を使った文（受け身、現在完了形）について復習し、理解	○復習 ・ 受け身 ・ 現在完了

	を深める。 ○過去分詞を使った文（受け身、現在完了形）を使って英文を書くことができる。	
2	Speaking Plus 1 「コンサートに行こう」 ○「…しませんか」と人を誘ったり、「…しましょう」と提案したりすることができる。	○誘う・提案する ・ Would you like to come with me?
2	Multi Plus 3 「わたしの詩」 ○詩を読んで、その内容や構成を理解することができる。 ○決められたルールにしたがって5行詩を書いたり、自分の気持ちを自由に詩に表現したりすることができる。	○自分の気持ちを自由に表現する。 ・ Lunchtime . . .
5	Let's Read 1 "A Mother's Lullaby" ○物語の内容を理解し、その背景となる歴史的事実を知るとともに、戦争と平和について考えることができる。 ○物語を読んで、場面の変化や登場人物の心情などを読み取ることができる。	○「おかあさんのうた」の英語翻案
2	Let's Chat 1 「話の切り出し方」 ○適切な表現を使って、話を切り出すことができる。 ○最近のヒット商品について、友だちとおしゃべりすることができる。	○話の切り出し方 ・ Are you interested in ~? ・ Do you like ~ ? ・ I hear you like ~.
2	Speaking Plus 2 「食卓で」 ○食事のとき、人にものをすすめたり、すすめられて応じたりすることができる。	○ものをすすめる ・ Would you like some more? — Yes, please. / No, thank you.
9	Unit 4 "An American Rakugo-ka" ○落語の楽しさや英語の落語のユニークさなどを本文から読み取ることができる。 ○不定詞の特殊な用法（疑問詞+to不定詞、It is ... to不定詞）を理解し、適切な場面で運用することができる。	○不定詞の用法 ・ I know how to use a fan. ・ It is difficult for me to understand Japanese.
1	Listening Plus 4 「落語家ビル・クラウリー」 ○有名人へのインタビューの質問文を作ったり、インタビューを聞き	○インタビューを聞く ・ Do American enjoy rakugo?

	て具体的な内容や大切な部分を聞き取ったりメモを取ったりすることができる。	
2	まとめと練習② 不定詞 ○不定詞を含んだ文について復習し、理解を深める。 ○不定詞を使って英文を書くことができる。	○不定詞
2	Speaking Plus 3 「道案内」 ○目的地までの電車やバスでの行き方を尋ねたり、教えたりすることができる。	○乗り物での行き方を教える ・ Change trains at the third stop.
9	Unit 5 "Cell Phones – For or Against?" ○「携帯電話は子どもに必要か」というテーマの議論を読んで、自分なりの意見をまとめることができる。 ○現在分詞及び過去分詞による後置修飾の形・意味・用法を理解し、表現することができる。 ○間接疑問文の形・意味・用法を理解することができる。	○現在分詞及び過去分詞の後置修飾 ・ This is a picture taken about 70 years ago. ・ The people answering the telephones are operators ○間接疑問文 ・ I do not know what you mean.
1	Listening Plus 5 「優先席にすわってもよい？」 ○優先席を巡る議論を聞いて、自分なりの考えをもつことができる。 ○議論を聞いて、各々が賛成か反対、その理由は何かを聞き取ることができる。	○議論を聞く ・ Let's talk about priority seats.
2	Writing Plus 1 「意見の主張」 ○優先席を巡るいろいろな考えを読み、自分なりの意見をもつことができる。 ○自分の意見とその理由を文章の構成に気をつけて書くことができる。	○文章の構成を考えて書く ・ I think young people should not sit in priority seats.
9	Unit 6 "20th Century Greats" ○20世紀の偉人たちに興味・関心を持ち、人物像・業績・生涯についての話の内容を理解することができる。 ○接触節の形・意味・用法を理解し、表現することができる。また、関係代名詞（主格、目的格）を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。 ○自分が読んだり聞いたりして調べ	○接触節・関係代名詞 ・ This is a book I bought in the United States. ・ Carson is the scientist who wrote Silent Spring. ・ This is a movie that[which] makes us happy. ・ This is a book that she wrote last year.

	たことの概要をまとめるという作業をととして、英語で簡単なレポートを書くことができる。	
1	Listening Plus 6 「20世紀のスター」 ○ 20 世紀のスターの 1 人であるジョン・レノンについてのレポートを聞き、概要を理解することができる。 ○ レポートの発表を聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取り、メモすることができる。	○ レポート発表を聞く ・ We're doing a report on John Lennon.
2	まとめと練習③ 後置修飾 ○ 後置修飾の形を使って、英文を完成することができる。 ○ 後置修飾の形について復習し、理解を深めることができる。	○ 後置修飾
2	Speaking Plus 4 「電話の会話」 ○ 電話の応答で、「後でかけさせましょうか」などと申し出たり、伝言をたのむことができる。	○ 電話で申し出る、伝言を頼む ・ Do you want her to call you back? ・ Could you tell her to call me back?
2	Multi Plus 4 「わたしのスキット作り」 ○ 場面に合った表現を自ら考え、スキットを演じることができる。	○ 自分で自由に対話を作り、演じる。 ・ I'm studying Japanese ... ・ I mean, English.
5	Let's Read 2 "Family Rules" ○ 物語の内容を理解し、日本とアメリカの「しつけ」の違いについて考え、感想を述べ合うことができる。 ○ 物語を読んで、場面の変化や登場人物の心情などを読み取ることができるとともに、それらに応じた適切な朗読をすることができる。	○ 舞からの手紙
2	Let's Chat 2 ことばのつながり ○ 適切な表現を使って、ことばをつなぎ、話を続けることができる。 ○ 行ったことがある場所について、友達とおしゃべりすることができる。	○ ことばのつながり ・ Oh / let's see ...
2	Writing Plus 2 「卒業記念の寄せ書き」 ○ 3 年間の学校生活に対する自分の気持ちを英文に書き表すことがで	○ 思いを一言で書く ・ Friends Forever

	きる。 ○友だちと協力して、寄せ書きを作ることができる。	
6	Let's Read 3 "The Fall of Freddie the Leaf" ○物語の内容を理解し、「いのち」の大切さについて考え、感想を述べ合うことができる。 ○物語を読んで、場面の変化や登場人物の心情などを読み取ることができるとともに、それらに応じた適切な朗読をすることができる。	○物語「葉っぱのフレディ」
2	Let's Chat 3 確かめ方 ○適切な表現を使って、相手の言った内容について確かめながら、話を続けることができる。 ○知っているタレントについて、友だちとおしゃべりすることができる。	○確かめ方 ・ You mean … ・ Do you mean …? ・ Is that …?
20	まとめ ○既習の文型を用いた文を理解することができる。 ○既習の文型を用いて簡単な英語で表現することができる。	○文型の復習 ○既習事項を用いた発展学習

g 評価

教科であることを考慮するが、第5・6学年は、児童の実態から学習意欲を喚起するための方法を工夫する。評価の方法等に関しては、以下の項目等について、毎学期1回評価する。

○評価規準・・・・・・・・・・教師（小・中）

<第5・6学年>

- ・ 評価の観点：①コミュニケーションへの関心・意欲・態度
②表現（話すこと・書くこと）の能力
③理解（聞くこと・読むこと）の能力
④言語や文化への理解
- ・ 観点別学習状況（A，B，Cの3段階評価）
- ・ 評定（3段階）

<第7～9学年>

- ・ 評価の観点：①コミュニケーションへの関心・意欲・態度
②表現の能力

③理解の能力

④言語や文化についての理解)

- ・ 観点別学習状況 (A, B, C の 3 段階評価)
- ・ 評定 (5 段階)

○カリキュラム評価・・・教師 (小・中)

- ・ 指導計画に関する評価
- ・ 指導方法に関する評価
- ・ 実施状況に関する評価
- ・ 指導体制に関する評価

○自己評価・・・・・・・・児童生徒

- ・ 英語に関する意識調査、興味関心の度合い等

③ 直川小学校・直川中学校

ア 「4・3・2制」による教育システム

前期 (第1学年～第4学年) では、学級担任によるきめ細かな指導を行い、中期 (第5学年～第7学年) では、第5・6学年の英語科、音楽科で一部教科担任制を導入するとともに、小・中兼務制による教員の専門性を生かした指導を行う。後期 (第8学年～第9学年) では、教科担任制による個に応じた指導を行い個性の伸長を図る。

イ 小学校における「英語活動の時間」の新設

a 「英語活動の時間」新設の趣旨

今日、国際社会の中でさまざまな人々と交流して、連携と協調を図りながら主体的に生きていく資質や能力を養うことが求められている。こうした背景を受け、すでに小学校段階から総合的な学習の時間で、英語活動を積極的に取り組んできた。

しかしながら、これまで小学校における英語活動は、ゲームや歌など楽しさに重点が置かれ、コミュニケーション能力の育成につながっていなかったり、中学校への接続までは考えず系統性のある指導とは言えない実態も見られた。

こうした課題を克服するため、実践的コミュニケーション能力の育成に重点を置き、「聞くこと」「話すこと」を中心として、第5学年からの「英語科」へスムーズに移行できるような「英語活動の時間」を新設することとした。

b 全体目標

- ① 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ② 英語を聞くことや話すことに慣れ親しみながら実践的コミュニ

ケーション能力の基礎を養う。

- ③ 自国や外国の言語や文化に興味・関心を持たせるとともに理解を深める。

c 指導目標

・小学校第1・2学年

- ① 歌やゲーム、リズム遊び等を通して、英語に慣れ親しみ積極的に言語活動に取り組む。
- ② 歌やゲーム、リズム遊び等音声主体の言語活動を通して、教師や友だちと楽しく遊びながら、簡単な英語でのコミュニケーションの仕方を身につけることができるようにする。
- ③ 外部講師の活用等を通して、さまざまな人とわけへだてなく、自然にかかわろうとする態度を養う。

・小学校第3・4学年

- ① 歌やゲーム、リズム遊び、簡単な会話等を通して、楽しみながら積極的に言語活動に取り組む。
- ② 身近な題材や場面等での音声主体の言語活動を通して、相手の意向をおおむね理解したり、簡単な英語を用いて自分の気持ちを表現したりするコミュニケーションの仕方を身に付けることができるようにする。
- ③ 外部講師の活用等を通して、外国の言葉や生活に関心を持ち、積極的に関わろうとする態度を養う。

d 教科書

市販のテキストやカード、実物、VTR等の視聴覚機器等を利用した教材を活用して指導する。

e 指導体制

学級担任が中心に指導するが、必要に応じて外国人の外部講師を活用して指導効果を上げる。

f 指導内容

学年	時数	単元名・目標	主な内容
第	2	○あいさつをしよう ◇簡単な日常のあいさつをする。	Hello! I'm....
	2	○数字で遊ぼう ◇10までの数の言い方を知り親しむ。	How many? Two.

1 学 年 15h	2	○色で遊ぼう ◇身近な色の言い方を知り親しむ。	What color is this? This is Yellow.
	2	○形で遊ぼう ◇身近な形の言い方を知り親しむ。	What's this? This is a triangle.
	2	○動物で遊ぼう ◇身近な動物の言い方を知り親しむ。	What's this? This is a Lion.
	2	○おやつをあつめよう ◇身近なお菓子の言い方を知り親しむ。	What's this? This is a candy. I like.....
	2	○買い物をしよう ◇買い物の会話の言い方を知り親しむ。	 please. Here you are. Thank you.
	1	○英語で遊ぼう ◇外国のゲームを知り遊ぶ。	外国のゲーム
第 2 学 年 15h	2	○あいさつをしよう ◇簡単な日常のあいさつに親しむ。	How are you? I'm fine.
	2	○数で遊ぼう ◇20までの数の言い方を知り親しむ。	How many.....? Fifteen.
	2	○クイズをしよう ◇身近なものの名前を知り親しむ。	This is Really? Yes. No.
	2	○体操しよう ◇方向の言い方を知り親しむ。	up, down, left, right
	2	○くらべてみよう ◇大きさや長さの言い方を知り親しむ。	big — small long — short
	2	○果物をあつめよう ◇身近な果物の言い方を知り親しむ。	What's this? It's a banana.
	2	○買い物をしよう ◇買い物の会話の言い方を知り親しむ。	 please. What color? Here you are. Thank you.
	1	○英語で遊ぼう ◇外国のゲームを知り遊ぶ。	外国のゲーム
	2	○あいさつをしよう ◇日常のあいさつに慣れ親しむ。	How are you? I'm fine, and you? I'm.... Good bye.

第 3 学 年 35h	2	○数えてみよう ◇30までの数の言い方を知り親しむ。	I have Do you have....? Yes, I do. / No, I don't.
	3	○クイズをしよう ◇身近な学用品の名前を知り親しむ。	Is this....? That's right. / No, it isn't.
	2	○タッチしよう ◇体の部分の言い方を知り親しむ。	Touch your head.
	2	○くらべてみよう ◇ものを比べる言い方を広げ親しむ。	big - small long - short new - old
	2	○公園で遊ぼう ◇身近な動作を表す言い方を知り親しむ。	Let's
	3	○野菜をあつめよう ◇身近な野菜の言い方を知り親しむ。	What's this? It's a lettuce.
	3	○□□は好きですか？ ◇好みを尋ねたり答えたりする。	Do you like....? Yes, I do. / No, I don't.
	2	○好きな物は何ですか？ ◇好みを尋ねたり答えたりする言い方に親しむ。	What do you like? I like.....
	3	○何時ですか？ ◇時刻を尋ねたり答えたりする。	What time is it? It's
	3	○わたしはだれでしょう？ ◇できることを尋ねたり答えたりする。	Can you.....? Yes, I can. / No, I can't. Are you....?
	2	○宝物をさがそう ◇方向の言い方を広げ親しむ。	Go straight. Turn left.
	3	○買い物をしよう ◇買い物の会話の言い方を使って楽しむ。	What do you want? I want
	3	○英語で遊ぼう ◇学校生活を題材にしたゲームを楽しむ。	学校生活を題材に したゲーム
	2	○あいさつをしよう ◇日常のあいさつに慣れ親しむ。	Hello! Nice to meet you. Nice to meet you, too.

第 4 学 年 35h			How are you? I'm....
	2	○数えてみよう ◇100までの数の言い方を知り親しむ。	Do you have.....? Yes, I do. / No, I don't. plus, minus
	3	○クイズをしよう ◇身近な衣類の名前を知り親しむ。	What's this? It's a shirt. Let's check.
	2	○バースデートレインをつくろう ◇12ヶ月の言い方を知り親しむ。	When is your birthday? In
	2	○何歳ですか? ◇年齢を尋ねたり答えたりする。	How old are you? I'm
	2	○学校たんけんをしよう ◇場所を尋ねたり答えたりする。	Where is this? It's
	3	○番組さがしをしよう ◇曜日や時間の言い方を知り親しむ。	When? On What time? At
	3	○どちらが好きですか? ◇好みを尋ねたり答えたりする。	Which do you like, or? I like ..
	2	○どこの国から来たの? ◇どこから来たかを尋ねたり答えたりする。	Where are you from? I'm from Japan.
	3	○家族の紹介をしよう ◇家族の言い方を知り親しむ。	Who is this? This is my mother.
	3	○自己紹介をしよう ◇覚えた言い方を使って自己紹介をする。	I'm My birthday is ... I like ... I have ...
	2	○学校案内をしよう ◇方向の言い方を広げ親しむ。	Where is? Go straight. Turn right.
	3	○買い物をしよう ◇買い物の会話の言い方を使って楽しむ。	May I help you? How much? It's fifty yen.
	3	○英語で遊ぼう ◇学校生活を題材にしたゲームを楽しむ。	学校生活を題材にしたゲーム

g 評価

「英語活動の時間」が教科ではないことを考慮し、評価に関しては、毎学期、所見欄に文章表現する。

○評価規準・・・・・・・・・・教師（小・中）

- ・評価の観点：英語によるコミュニケーションを楽しみ、親しむ。
 - ① 進んでコミュニケーションを図ろうとする。
 - ② 英語音の特徴に慣れ親しみながら、話し手の意向を聞き取ったり、自分の考えや気持ちを表現したりする。
 - ③ 外国の言葉や生活に対して、興味・関心を持とうとする。

○カリキュラム評価・・・・・・・・教師（小・中）、保護者、児童

- ・指導計画に関する評価
- ・指導方法に関する評価
- ・実施状況に関する評価
- ・指導体制に関する評価

○自己評価・・・・・・・・・・児童

- ・英語活動の時間に関する意識調査、興味関心の度合い等

イ 小学校における「英語科」の新設

a 「英語科」新設の趣旨

第5学年からの中学校で学習する「英語科」の教科書を用いて「聞く、話す、読む、書く」の4領域をバランスよく学習することで系統的・継続的に無理なく実践的コミュニケーション能力の基礎の育成を図る。

b 教科目標

外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

c 指導目標

- ・小学校第5・6学年においては中学1年生の基礎を学習し、英語の音声に注意しながら、日常の生活でよく使用する英会話を話したり、また、簡単な応答ができるようにする。さらにアルファベットや文字と音声の基礎的な関係を学習する。
- ・中学校第1学年においては中学1年の後半と、中学2年の前半を学習し、語彙を増やし、コミュニケーションの積極的な態度の育成を図る。さらに、異文化に対する理解や言語の使用場面を広げ、日常生活に結びついた言語活動を行わせるよう指導する。
- ・中学校第2学年においては中学2年の後半、中学3年の前半を学

習し言語の使用場面や言語の働きをさらに広げ、事実関係を伝えたり、物事について判断した内容等からコミュニケーションを図れるよう指導する。

- ・ 中学校第3学年においては中学3年の後半を学習し、言語の使用場面や言語の働きを一層広げた言語活動を行わせ、様々な意見や考え等からコミュニケーションを図れるよう指導する。また、英字新聞を読んだり、異文化に対するレポートを書いたりなど、発展的な学習を行う。

d 教科書

小学校第5・6学年の指導に当たっては、中学校第1学年の教科書を、中学校第1学年の指導に当たっては、中学校第2学年の教科書を、中学校第2学年の指導に当たっては、中学校第3学年の教科書をそれぞれ早期給与する。

e 指導体制

小学校第5・6学年では小中兼務制を生かした中学校英語教員と小学校教員による指導を行う。中学校第1～3学年では中学校英語教員が中心に指導する。また、必要に応じて外国人の外部講師を活用して指導効果を上げる。

f 小中一貫した指導内容

学年	時数	単元名	主な内容等
第5学年 60h	12	Hello, English	アルファベットの読み書き あいさつ、身の回りの英語
	12	Unit 1 "ようこそ、グリーン先生"	be 動詞を用いた文 自己紹介のしかた
	12	Unit 2 "学校で"	指示代名詞 this/that 人称代名詞 he/she
	3	まとめと練習 1	be 動詞を用いた文の復習
	2	単語・文の書き方	英文を書く時のきまり
	2	Word Box 1	100 までの数字
	12	Unit 3 "グリーン先生の初授業"	一般動詞を用いた文 否定文・疑問文とその応答
	3	まとめと練習 2	一般動詞を用いた文
	2	Listening Plus1 "何の CM?"	コマーシャルのポイントを聞取

第 6 学 年 60h	12	Unit 4 "日本大好き"	What is ...?/ What do you ...? be 動詞＋形容詞
	10	Multi Plus 1 "わたしの自己紹介"	自己紹介の英文を書き、発表
	2	Speaking Plus 1 "忘れ物"	人称代名詞 my/your
	12	Unit 5 "ピクニックに行こう"	名詞の複数形 How many~ Let's/ Please
	2	Word Box 2	曜日, 教科
	12	Unit 6 "グリーン家の人々"	一般動詞 (三単現) 肯定文・疑問文とその応答・否定文
	10	まとめと練習 3	一般動詞 (三単現) の復習
第 7 学 年	1	Listening Plus2 "友達の…"	自己紹介の聞き取り
	1	Speaking Plus 2 "道案内"	乗り物での行き方を尋ねる・
	9	Unit 7 "カナダの学校"	Who ...? What time is it?
	2	Writing Plus 1 "学校のホ…"	自分の学校を紹介する英文
	9	Unit 8 "はじめてのカナダ旅行"	Where~?/ Whose~? 人称代名詞の目的格
	2	まとめと練習 4	人称代名詞の復習
	1	Listening Plus3 "海外旅行"	空港や機内での対話
	9	Unit 9 "クリスマスがやってきた"	現在進行形 命令文 be 否定命令文
	2	まとめと練習 5	現在進行形
	1	Multi Plus 2"私の一日"	一日の生活を表す表現
	1	Speaking Plus 3"電話の会話"	電話での対応
	9	Unit 10 "ナイアガラ滝の滝"	助動詞 can の用法 When ...?
	2	まとめと練習 6	いろいろな疑問詞
年	1	Word Box 3	月・序数
	1	Listening Plus4"不思議な夢"	間違い探し

105h	1	Speaking Plus4"ちょっと…"	許可を求める Can I ?/Can you?
	9	Unit 11 "それぞれのお正月"	一般動詞の過去形
	2	まとめと練習 7	一般動詞の過去形
	1	Listening Plus5"ある日曜日"	一般動詞の過去形
	1	Writing Plus 2"絵はがき"	旅先から絵はがきを英語で書く
	9	Let's Read "The Hungry Lion"	物語の展開を正確に読み取る
	2	Warm-up A Speech and a	ゲーム形式 What am I?
	9	Unit 1 "Baseball Friends"	be 動詞の過去形 過去進行形
	1	Listening Plus1" スポーツ…"	ニュースの聞き取り
	1	Writing Plus1 日記	日記の書き方 過去形
	9	Unit 2 "Emi Goes Abroad"	be going to~ SVOO/SVOC
	1	Listening Plus 2 海外旅行	飛行機の搭乗案内・機内放送
	2	まとめと練習 1	be 動詞 / be going to
	1	Speaking Plus1"先生にお願い"	May I ~?/ Could you~?
	5	総復習	文法事項
第 8 学	9	Unit 3 "E-pals in Asia"	不定詞の用法 副詞的・名詞的用法
	1	Listening Plus 3 家事アンケート	ポイントの聞き取り
	1	Writing Plus2 " メール"	メールの形式や有用表現
	1	MultiPlus1 "わたしの夢"	自己表現活動
	8	Let's Read1 "A Magic box"	劇形式の読み取り
	1	Let's Chat1 たずね返し方…	テレビ番組についておしゃべり
	1	MutiPlus2 "わたしの夏休み"	夏休みの思い出を書く
	9	Unit 4 "Homestay in the United States"	will/must / must not have to / do not have to

年	1	Listening Plus4 "慎のホーム…	ポイントの聞き取り
	2	まとめと練習 2	助動詞 can/will/must の復習
105h	1	Speaking plus2"電話の会話"	May I speak to~?
	9	Unit 5 "A Park or A Parking Area?"	接続詞 if/ when/ because/ that
	1	Listening Plus5 "テレビ番組"	ニュースを聞いてメモを取る
	1	Speaking Plus 3 "病院で"	What's wrong? I have ….
	9	Unit 6 "The Story of Silent Night"	There is (are)~構文 動名詞
	1	Listening Plus6 "クリスマス…	対話を聞いてメモをとる
	1	Speaking Plus4 "道案内"	Could you tell me the way to~
	1	MultiPlus3 "わたしの町"	There is~自分の町の紹介
	8	Let's Read 2 "Try to Be the Only One"	物語を正確に読み取り
	1	Let's Chat2 "コメントの仕方"	Lucky you./That's too bad.
	1	Writing Plus3"グリーティン…	お礼のカードの作成
	9	Unit 7 "My Favorite Movie"	比較表現 as~as /better/best -er/ the -est/more/ the most ~
	1	Listening Plus 7"映画ヒット…	ポイントの聞き取り
	2	まとめと練習 3	比較表現
	1	Speaking Plus 4 "買い物"	申し出る表現 shall I ~
	1	Multi Plus4"わたしの好きな…	自己表現活動
	8	Let's Read3 "Can Anyone Hear Me"	物語の読み取り
	1	Let's Chat3 "賛成・反対の…"	好きな歌手についておしゃべり
	2	Warm-up A Speech and a	Find the Differences
	9	Unit 1 "Let's Learn Braille"	受け身の文 SVOC
	1	Listening Plus 1"ボランティア…	案内の聞き取り
	2	Multi Plus1"私の日本文紹介"	受け身の復習

第 9 学 年 105h	9	Unit2 "The Shamisen Concert"	現在完了形（継続用法）
	1	Listening Plus 2"ニュース…	テレビの実況中継からの聞取り
	3	MultiPlus 2 "私の修学旅行"	自己表現活動 旅行記
	9	Unit3 "Our Sister in Nepal"	現在完了形（経験・完了形） 不定詞の形容詞的用法
	1	Listening Plus3"ネパールに…	地図やグラフを見ながら聞取り
	3	まとめと練習 1	受け身形と現在完了形
	1	Speaking Plus1"コンサート…"	Would you like~?
	2	Multi Plus 3 "わたしの詩"	自己表現活動
	9	Let's Read1"Mother's Lullaby"	登場人物の心情・場面の変化
	1	Let's Chat 1 "話の切り出し方"	Are you interested in~?
	1	Speaking Plus 2 "食卓で"	Would you like~?/Yes,please.
	9	Unit 4 "An American Rakugoka"	疑問詞+不定詞/I'm sorry. It's … for … to--構文
	1	Listening Plus4"落語家ビル…"	聞いて取材メモを取る
	2	まとめと練習 2	不定詞の復習
	1	Speaking Plus 3 "道案内"	how to~
	9	Unit 5 "Cell Phones-For or Against"	分詞の後置修飾/間接疑問文 when to …/where to …
	1	Listening Plus5"優先的に…"	賛成・反対の理由を聞き取る
	1	Writing Plus 1 "意見の主張"	自分の意見とその理由を書く
	9	Unit 6 "20th Century Greats"	関係代名詞(主格・目的格) who/that/which
	1	Listening Plus6"20 世紀の…"	聞いて取材メモを取る
	2	まとめと練習 3	名詞の後置修飾の復習
	1	Speaking Plus 4 "電話の会話"	want (tell) her to cal …
	2	Multi Plus 4 "わたしのスキ…"	話を創作しスキットを演じる
		Let's Read 2	物語の読み取り

7	"Family Rules"	アメリカの家族のあり方
1	Let's Chat 2"ことばのつな…"	友達とおしゃべり
2	Writing Plus2"卒業記念の…"	思いを伝えるメッセージを書く
7	Let's Read 3"The Fall of …"	物語の読み取り「いのち」
1	Let's Chat 2 "確かめ方"	友達とおしゃべり
8	総復習	文法事項を中心に

g 評価

以下の項目等について、毎学期1回評価する。

○評価規準・・・・・・・・・・教師（小・中）

＜第5・6学年＞

・評価の観点：

- ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度
- ②表現（話すこと・書くこと）の能力
- ③理解（聞くこと・読むこと）の能力
- ④言語や文化への理解

・観点別学習状況（A、B、Cの3段階）

・評定（3段階）

＜第7～9学年＞

・評価の観点：①コミュニケーションへの関心・意欲・態度

②表現の能力

③理解の能力

④言語や文化についての理解

・観点別学習状況（A、B、Cの3段階）

・評定（5段階）

○カリキュラム評価・・・・・・・・教師（小・中）

・指導計画に関する評価

・指導方法に関する評価

・実施状況に関する評価

・指導体制に関する評価

○自己評価・・・・・・・・・・児童生徒

・英語に関する意識調査、興味関心の度合い等

④ 大島小学校・大島中学校

ア 「4・3・2制」による教育システム

前期（第1学年～第4学年）では、学級担任によるきめ細かな指

導を行い、中期（第5学年～第7学年）では、第5・6学年の理科、社会科、英語科、体育科、英語活動の時間で教科担任制を導入するとともに、小・中兼務制による教員の専門性を生かした指導を行う。後期（第8学年～第9学年）では、教科担任制による個に応じた指導を行い個性の伸長を図る。

イ 小・中学校における「英語活動の時間」の新設

a 「英語活動の時間」新設の趣旨

子どもが世界の人々との交流を深めたり、互いに理解しあうためには実質的な共通語である英語に慣れ親しみ、各国の文化にふれ、異文化を理解し、日本や郷土の文化を相手に伝えて、互いの良さを認識して交流を深めるには、もっと児童生徒の英語による実践的なコミュニケーション能力の育成を図る必要がある。そのため、新たに英会話を学習活動の中心とする「英語活動の時間」を新設することとした。

b 全体目標

英会話学習を中心とした英語活動を通じて、各国の文化にふれ、異文化を理解し、日本や郷土の文化との比較や紹介を通じて、その良さを認識させるとともに、積極的に英語で会話図ろうとする態度の育成を図り、活動や体験を通して、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

c 指導目標

- ・第1学年入学時から第9学年卒業時までの9年間、連続性のある一貫した英会話指導により、実践的な英語によるコミュニケーション能力の基礎を養うことにある。
- ・1、2学年では、20時間設定し、基本的なあいさつ、動物や食べ物などの名前、鳴き声やクリスマスなど親しみやすい歌などをおして、英語に早くから慣れるように「英語で遊ぶ」ことを指導目標としている。
- ・3、4学年では、70時間設定し、生活の場面でよく使われる簡単なあいさつやゲームなどをおして、英語の音声の特徴に慣れ親しみ、「会話で遊ぶ」ことを指導目標としている。
- ・5～7学年では、35時間を設定し、英会話を中心として、簡単な慣用句を活用し、自分の思いや考えを相手に伝えたり、話し手の伝えたいことを聞いたりして「会話を楽しむ」ことを指導目標にしている。
- ・8、9学年では、35時間設定し、これまでの連続した英会話教育により、身近な場面を自然な口調で話せるようにし、場面や相手を

考えて、話し手の伝えたいことを聞いたり、自分の伝えたいことを話すとともに、実用的な英会話の基礎ができることを指導目標にしている。

d 教科書と指導体制

独自テキストを作成し、第1学年・第2学年においては担任及びALTが指導にあたり、第3学年～第9学年においては中学校の英語科の教員とALTとで指導にあたる予定である。

なお、小学校の教員を対象に小学校における英語活動に関する校内研修について、来年度はさらに研修を充実させる予定である。

e 具体的な指導内容

	学 年	各学年の目標	主な内容
前期	1・2 学年 (20 時間)	身近な場面での活動や歌、ゲームなどを通して、英語の音声の特徴に慣れ親しみ、簡単な語句や質問、依頼について、聞いたり話したりできるようにする。	・日常のあいさつ、自己紹介 ・名前の聞き方、「～が好きですか」「これは～です」などの言い方 ・色や数、食べ物の名前、動物の前や鳴き方、クリスマスの歌など
	3・4 学年 (70 時間)	身近な場面での活動や体験を通して、英語の音声の特徴に慣れ親しみ、基本的な文であらわされる質問や依頼について、理解しながら聞いたり、自分の言いたいことを話したりできるとともに、異文化を理解できるようにする。	・家族の紹介、初対面のあいさつ ・「いくらですか」「何がほしいですか」「～をもっていますか」の言い方 ・スポーツや遊び、ハロウィーンパーティー、バレンタインデーなどの外国の行事のインタビュー ・年齢の言い方、からだの動きを表す言葉、文房具、おもちゃなど
中期	5～7 学年 (35 時間)	身近な場面・題材や体験的な活動を通して、英語の音声の特徴を理解し、場面や相手を考えて、話し手の伝えたいことや自分の伝えたいことを聞いたり話したりできるようにする。 また、異文化について理解し、自国の文化を相手に伝え、自国の文化に対する理解を深めるようにする。	・道案内、自分のことを話そう ・ハロウィーンパーティー、クリスマスパーティー、バレンタインデーなどの外国の行事のインタビュー ・大島の簡単な紹介 ・家族の言い方、年齢や数の言い方、食べ物、色、動物の名前、体の動きを表す言葉、自然、施設、曜日や天気など
後期	8・9 学年 (35 時間)	第7学年までに学習した身近な場面・題材を発展させるために、より複雑な内容に関して、自然な口調で話される英語の音声の特徴を理解できるようにする。 場面や相手を考えて、話し手の伝えたいことや自分の伝えたいこ	・電話での会話、買い物、道案内 ・大島の説明や案内をする時に使う表現 ・世界の文化について英語で発表する。 ・フリートーキングやALTによるインタビューテスト

		とを聞いたり話したりできるとともに、実用的な英語について読んだり書いたりできるようにする。	・季節、月、曜日、時間、天気、数、家族などの日常生活にかかわる語や文化など説明する時に使う専門用語
--	--	---	---

f 評価

「英語活動の時間」が教科ではないことを考慮し、評価に関しては、毎学期、所見欄に文章表現する。

○評価規準・・・・・・・・・・教師(小・中)

・評価の観点：

- ①英語によるコミュニケーションに親しみ、楽しもうとする。
- ② 英語音の特徴に慣れ親しみながら、話し手の意向を聞き取ったり、自分の考えや気持ちを表現したりする。
- ③ 外国の言葉や生活に対して、興味・関心をもとうとする。

・記述による評価の表示（要録、通知表）

○カリキュラム評価・・・・・・・・教師（小・中）、保護者、児童生徒

- ・指導計画に関する評価
- ・指導方法に関する評価
- ・実施状況に関する評価
- ・指導体制に関する評価

○自己評価・・・・・・・・・・児童

・英語活動の時間に関する意識調査、興味関心の度合い等

ウ 小学校における「英語科」の新設

a 「英語科」新設の趣旨

第5学年から英語の授業に取り組むことでゆとりある指導計画を作成し、英語の基礎的・基本的な内容の繰り返し学習や発展的な学習を保障し、個に応じたきめ細かい指導をすることにより、基礎・基本の確実な定着と生きる力の育成をめざして新設することとした。

b 教科目標

英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことに加えて書いたり、読んだりすることなどの英語能力の基礎を養う。

c 指導目標

現行の中学校学習指導要領に準拠しながら進める。ただし、英語活動の時間で、第1学年から読むこと・聞くことは学習しているの

で、第5学年から第9学年で英語活動の時間の内容との整合性をもたせながら、中学校の教科書を使用して学習し、聞く・話す・読む・書くの4技能の総合的な獲得をめざす。

さらに、ゆとりある指導計画を作成し、英語の基礎・基本的な内容の繰り返し学習や発展的な学習を保障し、個に応じたきめ細かい指導をすることにより、基礎・基本の確実な定着と英語をとおしての異文化を理解する能力の向上を図る。

d 教科書と指導体制

第5～7学年の指導に当たっては、中学校第1学年の教科書を、第7学年の指導に当たっては、中学校第2学年の教科書を、第8学年の指導に当たっては、中学校第3学年の教科書をそれぞれ早期給与する。

そして、第5～9学年の指導は小中兼務制をいかした中学校英語教員による指導を行う。また、必要に応じて外国語の外部講師等を活用して指導効果をあげる。

e 小中一貫した指導内容

	学 年	主 な 内 容	使用教科書
中期	第5学年 (55時間)	アルファベット、Be動詞の現在、指示代名詞、疑問詞 what	中学校1年生の教科書を使って学習する。
	第6学年 (55時間)	一般動詞の現在、助動詞 can、命令文、現在進行形	
	第7学年 (105時間)	一般動詞の過去、Be動詞の過去、過去進行形、助動詞 will、be going to (未来表現)	中学校1年生の英語の教科書の未履修部分を学習し、引き続いて中学校2年生の教科書を使って学習する。
後期	第8学年 (105時間)	There is (are)、接続詞 that、不定詞、動名詞、比較、受動態、現在完了	中学校2年生の英語の教科書の未履修部分を学習し、引き続いて中学校3年生の教科書を使って学習する。
	第9学年 (105時間)	It-for-to、so-that、too-to、関係代名詞、分詞の後置修飾	中学校3学年の英語の教科書の未履修部分を学習する。

※下学年から英語の授業に取り組むことでゆとりある指導計画を作成し、英語の基礎的・基本的な内容の補充的な学習や発展的な学習に取り組む機会を保障し、個に応じたきめ細かい指導をすることにより、基礎・基本の確実な定着と生きる力の育成をめざす。

f 評価

以下の項目について、毎学期1回評価する。

○評価規準・・・・・・・・・・教師(小・中)

＜第5・6学年＞

- ・評価の観点：①コミュニケーションへの関心・意欲・態度
②表現（話すこと・書くこと）
③理解（聞くこと・読むこと）
④言語や文化への理解
- ・観点別学習状況（A、B、Cの3段階）
- ・評定（3段階）

＜第7～9学年＞

- ・評価の観点：①コミュニケーションへの関心・意欲・態度
②表現（話すこと・書くこと）
③理解（聞くこと・読むこと）
④言語や文化についての理解
- ・観点別学習状況（A、B、Cの3段階）
- ・評定（5段階）

○カリキュラム評価・・・・・・・・教師（小・中）

- ・指導計画に関する評価
- ・指導方法に関する評価
- ・実施状況に関する評価
- ・指導体制に関する評価

○自己評価・・・・・・・・・・児童生徒

- ・英語に関する意識調査、興味関心の度合い等

エ 授業時数増に伴う指導上の配慮

小学校第1，2学年で各10時間、第3～9学年で各35時間の授業時数を別途上乘せしたことにより、児童生徒の負担加重とならないように、音声や身体表現等による「聞く活動、話す活動」の英会話を中心にした活動を発達段階に応じて行うなどの工夫をする。

(4) 初年度の授業時数

- ・次ページ参照

(5) 本計画と日本国憲法、教育基本法、学校教育法に示す学校教育の目標との関連について

本計画で実現する小中一貫教育においては、申請を行う当該小中学校

の児童生徒を対象にしたものであり、教育の機会均等を示した憲法第26条を踏まえていると考える。

また、地域の実情に応じた教育活動を展開することで、教育の目的である人格の完成等を示した教育基本法第1条を踏まえていると考える。

さらに、小学校で新たに新設する「英語活動の時間」や「英語科」は国際的視野に立つ子どもの育成をめざしたコミュニケーション能力の向上など「生きる力」の育成をめざした学習指導要領の趣旨を踏まえていると考える。

なお、小学校の「英語活動の時間」や「英語科」の新設による現行の生活科、総合的な学習の時間の授業時数の削減については、前述の目標や指導内容で示したとおり、これまで取り扱ってきた内容を、新しい教科等でさらに補充的・発展的に融合化して取り扱うものであり、指導内容そのものまで削減するものではない。

小学校第1学年から小学校第4学年までの「英語活動の時間」の新設による生活科や総合的な学習の時間の授業時数の削減については、これまで扱われてきた内容を踏まえ、学校や地域の実態に応じて体系的に英語活動の時間のカリキュラムを編成することにより、新しい一定のまとまった時間を設けて実施するものである。これにより、外国の人や英語に慣れ親しむ英語活動を通して、気づいたことや楽しかったこと等を言葉や動作等で伝え合うコミュニケーション能力の基礎を培うとともに、異文化や自国（郷土）文化に対する興味・関心を高めることをめざすものであり、「自分自身や自分の生活について考える」生活科の目標や「自己の生き方を考える」総合的な学習の時間のねらいを達成できるものと考ええる。

小学校第5学年と第6学年の「英語科」の新設による総合的な学習の時間の授業時数の削減については、これまで総合的な学習の時間の中で扱われてきた英語活動の実績を踏まえ、中学校第3学年までの5年間を見通した体系的な英語教育のカリキュラムを編成することにより、英語科という教科で実施するものである。英語を通じて異文化や言語の理解を深め、国際化や情報化などの社会の変化に対応できる資質能力を高めるための英語による実践的コミュニケーション能力を育成することをめざすものであり、総合的な学習の時間のねらいと合致するものと考ええる。

さらに、児童生徒が他地域や市町村から転入してきた場合、毎週水曜日（職員会議や校内研修に充てている時間）の一部と、平日の放課後の時間を補充指導の時間に充て、個に応じた指導を徹底する。

＜東雲小学校・東雲中学校の授業時数＞

※表中の下段は標準授業時数

		必修教科の授業時数										道徳	特活	選択	総合	英語活動	総数
		国語	社会	算数 数学	理科	生活	音楽	図工 美術	家庭 技家	体育 保健	外国語						
前期	1 学年	272		114		82	68	68		90		34	34			20	782
		272		114		102	68	68		90		34	34				782
	2 学年	280		155		85	70	70		90		35	35			20	840
		280		155		105	70	70		90		35	35				840
	3 学年	235	70	150	70		60	60		90		35	35		70	35	910
		235	70	150	70		60	60		90		35	35		105		910
	4 学年	235	85	150	90		60	60		90		35	35		70	35	945
		235	85	150	90		60	60		90		35	35		105		945
中期	5 学年	180	90	150	95		50	50	60	90	70	35	35		40		945
		180	90	150	95		50	50	60	90		35	35		110		945
	6 学年	175	100	150	95		50	50	55	90	70	35	35		40		945
		175	100	150	95		50	50	55	90		35	35		110		945
	7 学年	140	105	105	105		45	45	70	90	105	35	35	20	80		980
		140	105	105	105		45	45	70	90	105	35	35	0~30	70~100		980
	8 学年	105	105	105	105		35	35	70	90	105	35	35	75	80		980
		105	105	105	105		35	35	70	90	105	35	35	50~85	70~105		980
後期	9 学年	105	85	105	80		35	35	35	90	105	35	35	155	80		980
		105	85	105	80		35	35	35	90	105	35	35	105~165	70~130		980

＜本匠小学校・本匠中学校の授業時数＞

		必修教科の授業時数										道徳	特活	選択	総合	英語活動	総数
		国語	社会	算数 数学	理科	生活	音楽	図工 美術	家庭 技家	体育 保健	外国語						
前期	1 学年	272		114		87	68	68		90		34	34			15	782
		272		114		102	68	68		90		34	34				782
	2 学年	280		155		90	70	70		90		35	35			15	840
		280		155		105	70	70		90		35	35				840
	3 学年	235	70	150	70		60	60		90		35	35		70	35	910
		235	70	150	70		60	60		90		35	35		105		910
	4 学年	235	85	150	90		60	60		90		35	35		70	35	945
		235	85	150	90		60	60		90		35	35		105		945
中期	5 学年	180	90	150	95		50	50	60	90	50	35	35		60		945
		180	90	150	95		50	50	60	90		35	35		110		945
	6 学年	175	100	150	95		50	50	55	90	50	35	35		60		945
		175	100	150	95		50	50	55	90		35	35		110		945
	7 学年	140	105	105	105		45	45	70	90	105	35	35	30	70		980
		140	105	105	105		45	45	70	90	105	35	35	0~30	70~100		980
	8 学年	105	105	105	105		35	35	70	90	105	35	35	85	70		980
		105	105	105	105		35	35	70	90	105	35	35	50~85	70~105		980
後期	9 学年	105	85	105	80		35	35	35	90	105	35	35	165	70		980
		105	85	105	80		35	35	35	90	105	35	35	105~165	70~130		980

<直川小学校・直川中学校の授業時数>

		必修教科の授業時数										道徳	特活	選択	総合	英語活動	総数
		国語	社会	算数 数学	理科	生活	音楽	図工 美術	家庭 技家	体育 保体	外国語						
前期	1 学年	272		114		87	68	68		90		34	34			15	782
		272		114		102	68	68		90		34	34				782
	2 学年	280		155		90	70	70		90		35	35			15	840
		280		155		105	70	70		90		35	35				840
	3 学年	235	70	150	70		60	60		90		35	35		70	35	910
		235	70	150	70		60	60		90		35	35		105		910
	4 学年	235	85	150	90		60	60		90		35	35		70	35	945
		235	85	150	90		60	60		90		35	35		105		945
中期	5 学年	180	90	150	95		50	50	60	90	60	35	35		50		945
		180	90	150	95		50	50	60	90		35	35		110		945
	6 学年	175	100	150	95		50	50	55	90	60	35	35		50		945
		175	100	150	95		50	50	55	90		35	35		110		945
	7 学年	140	105	105	105		45	45	70	90	105	35	35	30	70		980
		140	105	105	105		45	45	70	90	105	35	35	0~30	70~100		980
後期	8 学年	105	105	105	105		35	35	70	90	105	35	35	85	70		980
		105	105	105	105		35	35	70	90	105	35	35	50~85	70~105		980
	9 学年	105	85	105	80		35	35	35	90	105	35	35	165	70		980
		105	85	105	80		35	35	35	90	105	35	35	105~165	70~130		980

<大島小学校・大島中学校の授業時数>

		必修教科の授業時数										道徳	特活	選択	総合	英語活動	総数
		国語	社会	算数 数学	理科	生活	音楽	図工 美術	家庭 技家	体育 保体	外国語						
前期	1 学年	272		114		92	68	68		90		34	34			20	792
		272		114		102	68	68		90		34	34				782
	2 学年	280		155		95	70	70		90		35	35			20	850
		280		155		105	70	70		90		35	35				840
	3 学年	235	70	150	70		60	60		90		35	35		70	70	945
		235	70	150	70		60	60		90		35	35		105		910
	4 学年	235	85	150	90		60	60		90		35	35		70	70	980
		235	85	150	90		60	60		90		35	35		105		945
中期	5 学年	180	90	150	95		50	50	60	90	55	35	35		55	35	980
		180	90	150	95		50	50	60	90		35	35		110		945
	6 学年	175	100	150	95		50	50	55	90	55	35	35		55	35	980
		175	100	150	95		50	50	55	90		35	35		110		945
	7 学年	140	105	105	105		45	45	70	90	105	35	35	30	70	35	1015
		140	105	105	105		45	45	70	90	105	35	35	0~30	70~100		980
後期	8 学年	105	105	105	105		35	35	70	90	105	35	35	85	70	35	1015
		105	105	105	105		35	35	70	90	105	35	35	50~85	70~105		980
	9 学年	105	85	105	80		35	35	35	90	105	35	35	165	70	35	1015
		105	85	105	80		35	35	35	90	105	35	35	105~165	70~130		980

別紙

1 特定事業の名称

819 構造改革特別区域研究開発学校における教科書の早期給与特例事業

2 当該規則の特例措置の適用を受けようとする者

佐伯市立東雲小学校・東雲中学校、本匠小学校・本匠中学校、直川小学校・直川中学校、大島小学校・大島中学校

3 当該規則の特例措置の適用の開始の日

平成19年4月1日

4 特定事業の内容

(1) 事業に関与する主体

佐伯市

(2) 事業が行われる区域

佐伯市立4中学校区内の4小学校及び4中学校

(佐伯市立東雲小学校・東雲中学校)

(佐伯市立本匠小学校・本匠中学校)

(佐伯市立直川小学校・直川中学校)

(佐伯市立大島小学校・大島中学校)

(3) 事業の実施期間

平成19年4月1日から

(4) 事業により実現される行為や整備される施設などの詳細

上浦地域（東雲小学校・東雲中学校）、本匠地域（本匠小学校・本匠中学校）、直川地域（直川小学校・直川中学校）及び離島の大島地域（大島小学校・大島中学校）において、小中9年間を見通した系統性・継続性のある連携型の小中一貫教育を行う。

東雲小学校・東雲中学校では、英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする資質や能力と豊かな国際感覚の育成を図るため、小学校1年～4年に「英語活動の時間」、小学校5・6年に「英語科」の新設を具体的な方策に掲げた教育課程の編成を行う。

本匠小学校・本匠中学校では、これからの国際社会の中で心豊かにたくましく生きる児童・生徒の育成を図るために、国際理解教育の一環としての「英語活動の時間」、外国語教育としての「英語科」を新設し、言語や文化に対する理解を深め、聞くことや話すことなどの実践的コミュ

コミュニケーション能力の基礎を養うことを具体的な方策に掲げた教育課程の編成を行う。

直川小学校・直川中学校では、小学校段階から英語に慣れ親しみ、中学校英語へのスムーズな移行を図るとともに、外国語や外国文化に興味・関心を持ち、豊かな国際感覚を養いながら、イニシアティブをもった実践的コミュニケーション能力の育成を図るため、9年間で継続的・系統的に指導する「英語活動の時間・英語科」の新設を具体的な方策に掲げた教育課程の編成を行う。

大島小学校・大島中学校では、過疎化に悩む将来の大島を担う「人材の育成」を図るため、小学校1年～中学校3年までの9年間を見通した英会話を学習活動の中心におく「英語活動の時間」、小学校5年～中学校3年までの5年間を見通した「英語科」を新設するための具体的な方策を掲げた教育課程の編成を行う。

これら地域の小・中学校では、特例措置により小学校に新設する「英語科」において、小学校第5学年より中学校の英語教科書を使用した英語教育を行う。

5 当該規則の特例措置の内容

(1) 取組の期間

平成19年4月から実施し、平成24年度に事業全体を評価し、見直しを実施する。ただし、その間に学校教育法の改正や新しい学習指導要領等が示された場合においては、当該特例措置の内容やその後の継続等を含め、十分な検討を行う。

(2) 教育課程の基準によらない部分

① 教育内容

<東雲小学校・東雲中学校>

ア 東雲小学校

- 前期の第1学年から第4学年に「英語活動の時間」を新設する。
(第1・2学年は年間20時間、第3・4学年は年間35時間)
 - ・第1学年と第2学年の生活科を20時間削減し、「英語活動の時間」に充てる。
 - ・第3学年と第4学年の総合的な学習の時間を35時間削減し、「英語活動の時間」に充てる。
- 中期の第5学年と第6学年に「英語科」を新設する。(年間70時間)
 - ・第5学年と第6学年の総合的な学習の時間を70時間削減し、「英語科」に充てる。
- 前期の第1学年から第4学年までの「英語活動の時間」の一貫した教育課程を編成する。

イ 東雲中学校

- 中期の第5学年から後期の第9学年までの「英語科」の一貫した教育課程を編成する。

＜本匠小学校・本匠中学校＞

ア 本匠小学校

- 前期の第1学年から第4学年に「英語活動の時間」を新設する。
(第1・2学年は年間15時間、第3・4学年は年間35時間)
 - ・第1学年と第2学年の生活科を15時間削減し、「英語活動の時間」に充てる。
 - ・第3学年と第4学年の総合的な学習の時間を35時間削減し、「英語活動の時間」に充てる。
- 中期の第5学年と第6学年に「英語科」を新設する。(年間50時間)
 - ・第5学年と第6学年の総合的な学習の時間を50時間削減し、「英語科」に充てる。
- 前期の第1学年から第4学年までの「英語活動の時間」の一貫した教育課程を編成する。

イ 本匠中学校

- 中期の第5学年から後期の第9学年までの「英語科」の一貫した教育課程を編成する。

＜直川小学校・直川中学校＞

ア 直川小学校

- 前期の第1学年から第4学年に「英語活動の時間」を新設する。
(第1・2学年は年間15時間、第3・4学年は年間35時間)
 - ・第1学年と第2学年の生活科を15時間削減し、「英語活動の時間」に充てる。
 - ・第3学年と第4学年の総合的な学習の時間を35時間削減し、「英語活動の時間」に充てる。
- 中期の第5学年と第6学年に「英語科」を新設する。(年間60時間)
 - ・第5学年と第6学年の総合的な学習の時間を60時間削減し、「英語科」に充てる。
- 前期の第1学年から第4学年までの「英語活動の時間」の一貫した教育課程を編成する。
新設する。

イ 直川中学校

- 小学校第5学年から中学校第3学年までの「英語科」の一貫した教育課程を編成する。

<大島小学校・大島中学校>

ア 大島小学校

- 前期と中期の第1学年から第6学年に「英語活動の時間」を新設する。(第1・2学年は年間20時間、第3・4学年は年間70時間、第5・6学年は年間35時間)
 - ・第1学年と第2学年の生活科を10時間削減するとともに、10時間分を別途上乘せして「英語活動の時間」に充てる。
 - ・第3学年と第4学年の総合的な学習の時間を3.5時間削減するとともに、3.5時間分を別途上乘せして「英語活動の時間」に充てる。
 - ・第5学年と第6学年に3.5時間分を別途上乘せして「英語活動の時間」に充てる。
- 中期の第5学年と第6学年に「英語科」を新設する。(年間5.5時間)
 - ・第5学年と第6学年の総合的な学習の時間を5.5時間削減し、「英語科」に充てる。

イ 大島中学校

- 中期と後期の中学校第1学年から中学校第3学年に「英語活動の時間」を新設する。(年間3.5時間)
 - ・中学校第1学年から中学校第3学年に3.5時間分を別途上乘せして「英語活動の時間」に充てる。
- 小学校第1学年から中学校第3学年までの「英語活動の時間」の一貫した教育課程を編成する。
- 小学校第5学年から中学校第3学年までの「英語科」の一貫した教育課程を編成する。

② 上学年の教科書の使用について

中期(第5・第6学年)に中学校第1学年用教科書(英語)を、中期(第7学年)に中学校第2学年用教科書(英語)を、後期(第8学年)に中学校第3学年用教科書(英語)を早期給与する。

ただし、計画初年度に各学校・各学年で使用する教科書は次のとおりである。

ア 東雲小学校・東雲中学校

学年	年間授業時数	主 な 内 容 (言 語 材 料)	平成1.9年度 使用する教科書
第5学年	70	Be動詞 代名詞 一般動詞 過去形 自己紹介文 あいさつ 道案内文 Which do you like~?	中学校第1学年用

		What is this?/How much~?	教科書
第6学年	70	Be 動詞 代名詞 一般動詞 命令文 三人称単数 What~/ Who~?	
第7学年	105	現在進行形 助動詞 can be 動詞過去形 過去進行形 未来形 接続詞 when 不定詞	中学校第1学年用教科書
第8学年	105	動名詞 比較級 現在完了形 She looks~. If~/Why~節	中学校第2学年用教科書

イ 本匠小学校・本匠中学校

学年	年間授業 時 数	主 な 内 容 (言 語 材 料)	平成19年度 使用する教科書
第5学年	50	・ be 動詞 ・ 疑問文、否定文 ・ 自己紹介の文など	中学校第1学年用教科書
第6学年	50	・ 一般動詞 ・ 進行形 ・ 過去の文	
第7学年	105	・ 助動詞 ・ 動名詞 ・ 受け身 等	中学校第1学年用教科書
第8学年	105	・ 現在完了 ・ 不定詞 ・ 関係代名詞 等	中学校第2学年用教科書

ウ 直川小学校・直川中学校

学年	年間授業 時 数	主 な 内 容 (言 語 材 料)	平成19年度 使用する教科書
第5学	60	アルファベット、be 動詞、指 示代名詞 (this/that) 人称代名 詞 (he/she)、数詞、一般動詞	

年		の疑問文否定文	中学校第1学年用教科書
第6学年	60	疑問詞 (what)、人称代名詞 (my/your) 名詞の複数形、How many、 Let's、 一般動詞 (三単現) 肯定文否定文疑問文	
第7学年	105	疑問詞 (who/where/whose)、現在進行形、命令文、助動詞 can、 一般動詞の過去形、be 動詞の過去形、be going to May I ~? Could you ~?	中学校第1学年用教科書
第8学年	105	不定詞、助動詞 (will must) 接続詞 (if when because that) 動名詞、受け身 比較表現、There is(are)構文	中学校第2学年用教科書

エ 大島小学校・大島中学校

学年	年間授業 時 数	主 な 内 容 (言 語 材 料)	平成19年度 使用する教科書
第5学年	55	アルファベット、Be 動詞の現在 指示代名詞、疑問詞 what	中学校第1学年用教科書
第6学年	55	一般動詞の現在 助動詞 can 命令文 現在進行形	
第7学年	105	一般動詞の過去 Be 動詞の過去 過去進行形 助動詞 will	中学校第1学年用教科書
第8学年	105	There is(are)、接続詞 that、 不定詞、動名詞、比較 受動態、現在完了	中学校第2学年用教科書

6 早期給与を受ける児童生徒数及び早期給与する教科書の種類・冊数の見込み

ア 東雲小学校・東雲中学校

<計画初年度（平成19年度）>

給与する英語科教科書	給与対象	平成19年度
※教科書名（発行所）	早期に給与する学年 （通常の給与学年）	早期給与必要冊数 （通常の給与冊数）
中学校第1学年用 NEW HORIZON （東京書籍）	第5学年・第6学年 （中学校第1学年）	35冊 （0冊）
	第7学年 （中学校第1学年）	0冊 （13冊）
中学校第2学年用 NEW HORIZON （東京書籍）	第8学年 （中学校第2学年）	0冊 （20冊）
中学校第3学年用 ONE WORLD （教育出版）	第9学年 （中学校第3学年）	0冊 （23冊）

<平成20年度>

給与する英語科教科書	給与対象	平成20年度
※教科書名（発行所）	早期に給与する学年 （通常の給与学年）	早期給与必要冊数 （通常の給与冊数）
中学校第1学年用 NEW HORIZON （東京書籍）	第5学年 （中学校第1学年）	13冊 （0冊）
中学校第2学年用 NEW HORIZON （東京書籍）	第7学年 （中学校第2学年）	17冊 （0冊）
	第8学年 （中学校第2学年）	0冊 （13冊）
中学校第3学年用 NEW HORIZON （東京書籍）	第8学年 （中学校第3学年）	13冊 （0冊）
	第9学年 （中学校第3学年）	0冊 （20冊）

<平成21年度>

給与する英語科教科書	給与対象	平成21年度
※教科書名（発行所）	早期に給与する学年 （通常の給与学年）	早期給与必要冊数 （通常の給与冊数）
中学校第1学年用 NEW HORIZON （東京書籍）	第5学年 （中学校第1学年）	15冊 （0冊）
中学校第2学年用 NEW HORIZON （東京書籍）	第7学年 （中学校第2学年）	18冊 （0冊）
中学校第3学年用 NEW HORIZON （東京書籍）	第8学年 （中学校第3学年）	17冊 （0冊）

イ 本匠小学校・本匠中学校

<計画初年度（平成19年度）>

給与する英語科教科書	給与対象	平成19年度
※教科書名（発行所）	早期に給与する学年 (通常の給与学年)	早期給与必要冊数 (通常の給与冊数)
中学校第1学年用 NEW HORIZON (東京書籍)	第5学年・第6学年 (中学校第1学年)	25冊 (0冊)
	第7学年 (中学校第1学年)	0冊 (16冊)
中学校第2学年用 NEW HORIZON (東京書籍)	第8学年 (中学校第2学年)	0冊 (21冊)
中学校第3学年用 ONE WORLD (教育出版)	第9学年 (中学校第3学年)	0冊 (19冊)

<平成20年度>

給与する英語科教科書	給与対象	平成20年度
※教科書名（発行所）	早期に給与する学年 (通常の給与学年)	早期給与必要冊数 (通常の給与冊数)
中学校第1学年用 NEW HORIZON (東京書籍)	第5学年 (中学校第1学年)	13冊 (0冊)
中学校第2学年用 NEW HORIZON (東京書籍)	第7学年 (中学校第2学年)	7冊 (0冊)
	第8学年 (中学校第2学年)	0冊 (16冊)
中学校第3学年用 NEW HORIZON (東京書籍)	第8学年 (中学校第3学年)	16冊 (0冊)
	第9学年 (中学校第3学年)	0冊 (21冊)

<平成21年度>

給与する英語科教科書	給与対象	平成21年度
※教科書名（発行所）	早期に給与する学年 (通常の給与学年)	早期給与必要冊数 (通常の給与冊数)
中学校第1学年用 NEW HORIZON (東京書籍)	第5学年 (中学校第1学年)	13冊 (0冊)
中学校第2学年用 NEW HORIZON (東京書籍)	第7学年 (中学校第2学年)	18冊 (0冊)
中学校第3学年用 NEW HORIZON (東京書籍)	第8学年 (中学校第3学年)	7冊 (0冊)

ウ 直川小学校・直川中学校

<計画初年度（平成19年度）>

給与する英語科教科書	給与対象	平成19年度
※教科書名（発行所）	早期に給与する学年 (通常の給与学年)	早期給与必要冊数 (通常の給与冊数)
中学校第1学年用 NEW HORIZON (東京書籍)	第5学年・第6学年 (中学校第1学年)	36冊 (0冊)
	第7学年 (中学校第1学年)	0冊 (29冊)
中学校第2学年用 NEW HORIZON (東京書籍)	第8学年 (中学校第2学年)	0冊 (23冊)
中学校第3学年用 ONE WORLD (教育出版)	第9学年 (中学校第3学年)	0冊 (26冊)

<平成20年度>

給与する英語科教科書	給与対象	平成20年度
※教科書名（発行所）	早期に給与する学年 (通常の給与学年)	早期給与必要冊数 (通常の給与冊数)
中学校第1学年用 NEW HORIZON (東京書籍)	第5学年 (中学校第1学年)	18冊 (0冊)
中学校第2学年用 NEW HORIZON (東京書籍)	第7学年 (中学校第2学年)	24冊 (0冊)
	第8学年 (中学校第2学年)	0冊 (29冊)
中学校第3学年用 NEW HORIZON (東京書籍)	第8学年 (中学校第3学年)	29冊 (0冊)
	第9学年 (中学校第3学年)	0冊 (23冊)

<平成21年度>

給与する英語科教科書	給与対象	平成21年度
※教科書名（発行所）	早期に給与する学年 (通常の給与学年)	早期給与必要冊数 (通常の給与冊数)
中学校第1学年用 NEW HORIZON (東京書籍)	第5学年 (中学校第1学年)	18冊 (0冊)
中学校第2学年用 NEW HORIZON (東京書籍)	第7学年 (中学校第2学年)	12冊 (0冊)
中学校第3学年用 NEW HORIZON (東京書籍)	第8学年 (中学校第3学年)	24冊 (0冊)

エ 大島小学校・大島中学校

<計画初年度（平成19年度）>

給与する英語科教科書	給与対象	平成19年度
※教科書名（発行所）	早期に給与する学年 （通常の給与学年）	早期給与必要冊数 （通常の給与冊数）
中学校第1学年用 NEW HORIZON （東京書籍）	第6学年 （中学校第1学年）	1冊 （0冊）
	第7学年 （中学校第1学年）	0冊 （0冊）
中学校第2学年用 NEW HORIZON （東京書籍）	第8学年 （中学校第2学年）	0冊 （1冊）
中学校第3学年用 ONE WORLD （教育出版）	第9学年 （中学校第3学年）	0冊 （0冊）

<平成20年度>

給与する英語科教科書	給与対象	平成20年度
※教科書名（発行所）	早期に給与する学年 （通常の給与学年）	早期給与必要冊数 （通常の給与冊数）
中学校第1学年用 NEW HORIZON （東京書籍）	第5学年 （中学校第1学年）	0冊 （0冊）
中学校第2学年用 NEW HORIZON （東京書籍）	第7学年 （中学校第2学年）	1冊 （0冊）
	第8学年 （中学校第2学年）	0冊 （0冊）
中学校第3学年用 NEW HORIZON （東京書籍）	第8学年 （中学校第3学年）	0冊 （0冊）
	第9学年 （中学校第3学年）	0冊 （1冊）

<平成21年度>

給与する英語科教科書	給与対象	平成21年度
※教科書名（発行所）	早期に給与する学年 （通常の給与学年）	早期給与必要冊数 （通常の給与冊数）
中学校第1学年用 NEW HORIZON （東京書籍）	第5学年 （中学校第1学年）	0冊 （0冊）
中学校第2学年用 NEW HORIZON （東京書籍）	第7学年 （中学校第2学年）	0冊 （0冊）
中学校第3学年用 NEW HORIZON （東京書籍）	第8学年 （中学校第3学年）	1冊 （0冊）